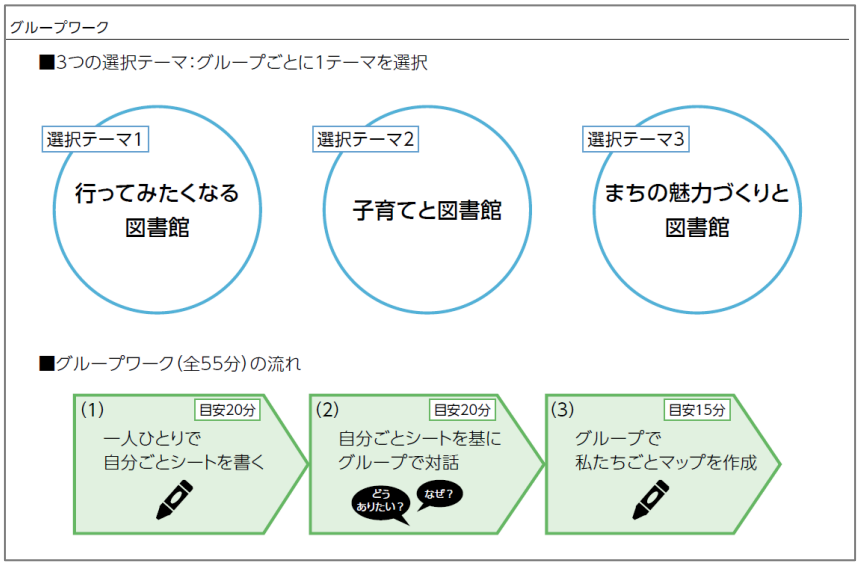
横浜市立図書館の未来を語るワークショップ　当日の記録

第１回 日時：2023 年 6 月 11 日（日）　14:00～16:30 場所：ウィリング横浜　（研修室 901） 参加人数：33 名	
第２回 日時：2023 年 6 月 18 日（日）　13:30～16:15 場所：都筑区役所（大会議室） 参加人数： 35 名	
第３回 日時：2023 年 6 月 24 日（土）　13:30～16:10 場所：神奈川公会堂（1 号会議室） 参加人数：34 名	
第４回 日時：2023 年 7 月 1 日（土）　13:30～16:10 場所：二俣川ケアプラザ（多目的ホール） 参加人数：32 名	

３つのテーマについて、各回５グループに分かれて意見交換していただきました。

グループワーク概要



1　各回のグループ発表と、ファシリテーターからの全体講評
2　各回の議事要旨

1―(1)　第１回　グループ発表

【発表】第１回・グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- 安心して過ごせる居場所、学びのためにはどんな機能・スペースがあったらいいか、交流する場として使うにはどうしたらいいか、について話し合った
- 横浜市の図書館は不便なところにあるので、「ついでに寄れる図書館」=駅前ライブラリー
- 学校の帰り、幼稚園・保育園のお迎えの帰り、買い物・病院の帰りに寄れる
- アクセスのいい場所に、サテライト的な図書館をつくって利用人数を増やそう！
- SNS も利用しつつ、いろんな人とにぎやかに交流して学びの場を創出する。飲食する場もあったらいい

【発表】第１回・グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- 行ってみたくなる図書館として「打倒スタバ」など色々意見が出た。スタバに行く時のようなリラックスした場を目指したらいいと思った
- 蔵書数を減らすという発想があってもいいのではないかという意見があった
- 本を読むだけでなく、人と交流することで進路相談などができるスペースがあるといいという意見などが出た
- 横浜市ならでは、として、市内にある大学や企業等との連携などのアイデアが出た

【発表】第１回・グループ３　選択テーマ：子育てと図書館

- 安心して子どもを連れていける場所の大前提として、清潔であるということ
- 小さい子を連れてきたときにトラブルに対処してくれる信頼できる大人がいる空間だったら、なおよいのではないか
- 子どもが声を出せるようなスペースは、小さいお子さんを連れている方には重要
- 親子で楽しめるサービスには色んな意見が出た。今でもたくさんやっているお話会は、大事なことなので続けてもらいたい
    - 派生して、ブックトークやおすすめ本の紹介、ビブリオバトル、読書会等、図書館らしいイベントの実施
    - 絵本の作家さんがやるようなワークショップ
- 本の並べ方を子どもたちが見やすいようにしていただきたい
- 親子で一緒に行ったら楽しいよ、と話したくなるようなスペースがあるといい
- 子どもが五感を感じられるよう、変わった椅子や、触って刺激されるようなものがいっぱい置いてあるとよい
- 展示スペースでは、見たことがないようなものを展示。漫画や、音楽、DVD 等、今

の若い人たちが行きたいと思うようなものがあるとよい

【発表】第１回・グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- 図書館が、まちの魅力づくりにどう貢献できるか。インターネット等はすぐに情報を調べられるなかで、この地域にある図書館は、地域の情報が発信でき、情報が集まっているというところが一番貢献できる。そこを提供する
- 地域の情報をどうやって集めるかという点では、まちの情報をみんなで探しに行くイベントを開催したり、魅力的な人自体を見つけたりする。さらに、そういう人たちが図書館に集まるイベントを開催し、外国の方や子ども、高齢者等いろいろな人が図書館で触れ合えるような「場」が図書館としてできればいいかと思う
- どうしたら行きたくなるかということでは、イベントをして人を集める。また今までのように施設として便利だからみんなが来る。情報がすごく溢れている中でガイドしてくれるような「本のコンシェルジュ」がいる、それもかかりつけ医のような、今だけではなく、子どものころからずっと見てくれていて、過去を踏まえて今の自分に合う情報を提供してくれる人がいたら行きたくなる、という意見が出た

【発表】第１回・グループ５　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- まちの魅力づくりと図書館について。図書館の構成、地域資源、つながりについて話し合った
- 学生、子ども、高齢者等、いろんな人が使える、使いやすい図書館ができたらいい
- ペットを連れて行ける図書館も需要があるのではないか。ペットがいることで図書館に入れない、イベントに行こうと思えないこともある
- 自分が持っている知識を誰かに発信したり、教え合う講座的な場が、図書館内にあるとよい
- 地域資源・魅力的な部分としては、案内所やアーカイブをつくる等。一人ひとりが知っている魅力を集めて、その地域をもっと良くしていく。その中心に図書館があるとよい。情報交換の掲示板があり、地域の人が交流できる拠点、それが図書館

１－(2)　【全体講評（ファシリテーターコメント）】第１回

グループ１のついでに寄れる図書館というのは重要な視点で、他グループでも類似の意見が出ていた。図書館をどこにつくるかという立地の問題は全国的にも議論になっている。

グループ２では横浜市ならではというところにこだわりたいという意見があり、シビックプライドの強さを感じた。

グループ３で印象的だったのは「安心していける安全な清潔な場所」という言葉。言い換えると「セーフな場所」。不安になる事件が多々あるなかで「安全な場所」というのは図書館の重要な定義の一つだと再認識した。

グループ４も地域へのこだわりが強く出ていた。横浜市は政令指定都市としてはかなり大きい。だからこそ多様であり、北部と南部でも違いがある。それぞれの良さを引き出していくことが大事。

グループ５の「多様性のある図書館を目指す」というのはとても良いまとめだと感じた。例えばペットを飼っている人等、色んな人の色んな想いを叶えられる場になるとよい。

ポイントとして、図書館で本を借りるという話は少なかった。本を借りなくていいということではなく、本を借りるのはもはや前提で、その先のプラスアルファについて特に話し合われていた。一方で図書館らしさにもつながる部分として、「なにかを交換する場でありたい」という話が出ていた。人と人とのつながりや、人の持っている知識を活かしたいという話が多々あった。そのためにもつながりをつくる場にしていきたいというのが皆さんの願いだと感じた。

２―(1)　第２回　グループ発表

【発表】第２回・グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- 居場所としての図書館
  - カフェ等の座れる場所。本だけではなく、図書館に行きたくなるきっかけとして、食べもの・飲み物・お酒等があるとよい
  - 混んでいて座れないことが多いので、座れる場所が多くあるとよい
  - 公園があるとよい
  - 本を読んで、やりたいことをすぐ実践できる場所があるとよい。たとえば料理本の近くにキッチン等
  - 小学校6年生のときに「小学生の居場所をつくる」ということで起業をしたことがあり、「居場所をつくる」というテーマだけでは人は集まらないので、手芸を通し居場所をつくった。図書館も本だけではなく、カフェや食べ物・飲み物等を通して居場所をつくれるといいと思った
- 学ぶことができる図書館
  - 談話スペースがあるとよい。図書館というと、ただ静かな空間をイメージするが、少し話してもよい空間があることで、教え合いや知識を意見交換する場がつくれる
  - 教えてくれる人（先生）がいる。一人で自習しに来た学生が聞きたいことを聞ける
  - 映像と音楽の貸出。本を読むことが苦手な市民でも、映像等から何か学びを得られるのではないか
  - 「タイプ診断」の導入。石川県立図書館でも実施している。個々のタイプに合ったおすすめの本を提案してくれるデジタルサービスがあれば、何から読めばいいかわからない場合も、おすすめ本からさらに広くさまざまな本に出合えるきっかけになる
- 交流する・つくることができる図書館
  - 「お手紙BOX」の設置。直接交流がなくても、「〇〇の本を読んだ人へ」という1対1ではなく、1対みんな、にお手紙を書くような交流ができる
  - ある本を読んだ人たちで集まっての、「本の感想会」等のイベント開催
  - 本を読まない10代の人が集まりやすいような、フェスやお祭りの開催
  - 登校前に外の居場所がほしい学生のために、早朝から使える図書館があるといい。静かに勉強できたり、ほかの誰かと交流する
  - ビブリオバトルの開催。自分の読んだ本を紹介し合って、そのなかで1位を決めるイベント。高校で図書委員をやっており、実際にビブリオバトルを開催したが、おすすめの本をたくさん知ることができて楽しかった。横浜市のみなさんにも本の選択肢が増えたらいいと思い提案する

【発表】第２回・グループ２　選択テーマ：子育てと図書館

- 安心して子どもを連れて行ける場所としての図書館とは、安全であること。駅や家の近くで、生活圏内にあって行きやすい場所。大人も連れて行きやすい場所。アクセスがしやすいところにある
- 騒いでもいい、子どもが喋っても大丈夫な空間であると同時に、マナーも学べる空間であることも大事
- セキュリティ面では、大人と子どものトイレを別々にしてほしい。子どもだけで安全に行けるトイレも設置してほしい
- 子育てをしている大人も疲れているので、ある程度広くて本棚も低く、大人が少し離れていても、子どもが見えるスペースがあると同時に、ちょっと隠れ家のような、子どもと大人が座って本が読めるスペースも両立されているといい
- 託児室があるといい。小上がりで靴を脱げる休憩スペースの機能も兼ね備えているといい
- 体験ができる場所。プラネタリウムや、博物館と連携して手で触れられるものが図書館にもあっていい
- 司書さんがいてくれる。本のアドバイスをしてもらえたらいい
- 親子で一緒に料理等を体験してみて、本との相乗効果が生まれるイベント
- 国際交流ができたらいい。英会話教室に行かなくても、図書館で外国の方と交流できるといい
- 情報リテラシーを親子で学べる空間があるといい
- 本・絵本の充実。横浜市は一人当たりの本が少ない。小学校の図書館との連携をぜひ広い図書館でやってほしい
- VR技術で、ソアリンのような、絵本の世界や宇宙・近未来・恐竜・歴史等、世界に没入できる空間。そこから知的好奇心を掻き立てて本につなげるという新しいものもあったらいい

【発表】第２回・グループ３　選択テーマ：子育てと図書館

- 安心して子どもを連れていけるように、ゾーニングがあるとよい。1 階は、大人と子ども、どちらも交流できる場があり、2 階は子どもだけでちょっと騒がしくても大丈夫で、地下は、大人だけが、静かに過ごせる場所など、区分けができているといい
- 駅に近いこと
- 親子で図書館に行くときに、ずっと子どもを見ているのは大変。大人も本を見に行きたいので荒川区のゆいの森の例のように、子どもを見守ってくれる大人がいるとよい、保育資格ある人が、短い時間でも見てくれるととても助かる
- 親子で楽しめるサービス・イベントと、子育ての資料、この 2 つのテーマで、 横浜市内でマッチングができたら面白いのではないか、という話が盛り上がった。学びの入り口として本があり、本と活動がつながる。例えば子どもが囲碁について興味を持ったとき、図書館に囲碁で遊べるスペースがある。さらに棋士の方を呼んで、講演を行

い、大人も楽しめる。本を通じて、色々なマッチングができて、子どもの知的好奇心も広げることができるのといいのではないか

- 赤ちゃん向けに、わらべ歌を歌って聞かせる。本だけでなく歌もメディア。またコンサートを開くのもいいのではないかというアイデアもあった
- 司書のレファレンス講座をぜひやってほしい。子どもたちも、司書に声をかけて、おすすめの本を聞きに行けるようになるとよい

【発表】第２回・グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- 横浜市は魅力が溢れるまちだと思っている。自然が多く、海もあり、交通の便もよく、施設も充実していて住みやすい。魅力があるとみんなが住みたいと思うので、元々魅力があるまちに、魅力のある図書館があるといいなと思う
- 図書館自体に多世代がいるので、交流の場になる企画や、つながり・交流の場として図書館と周りの活性化につながると思う
- 新しく図書館をつくる場合、既存の図書館を独立して建てるのではなく、図書館の情報を共有して図書館全体がつながっていくといい
- 行政と市民が一体になって活動するチーム・プラットフォームがあると魅力あふれる図書館について考えられると思う。今回のようなワークショップを1回で終わらせるのではなく、今後も続いていくといいと思う
- 青少年・児童・高齢者等の居場所はあるが、それぞれの居場所がつながらない。唯一つながるチャンスがあるのが図書館ではないか。それぞれ行政も縦割りだが、そうではなく、図書館が市民も集まってつくれるような素敵な空間であれば、すべての人が集まり、情報も集まって、みんなが活性化するのではないか。それには、いま集まった方たちと行政の方が情報を出し合ったりできるといい、と盛り上がった

【発表】第２回・グループ５　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- 図書館とは、情報収集と発信の場。紙ベースの蔵書やICTなどの情報がある。多世代、インクルーシブで、大学、企業との連携や、他の施設（コミュニティセンター、地区センター、子育て支援センター）との交流の場。また学びを社会還元する場。学びを社会化する中でまちのイメージができてくる。そうすると愛着が生まれ、定住につながり、呼び込む力になるのではないか
- ハード面では、アクセスがよいところであるなど、商業施設との機能連携や、夜はバーになるなどハードに関する話と、市民だけでなく、運営している人たちとの協働のパートナーとあってほしい、図書館の運営に市民も関わって欲しいという意見が出た
- 看板をとってもしまっても「これが横浜市の図書館だ！」が体現できる図書館が、私たちの目指すまちの魅力づくりである

２－(2)　【全体講評（ファシリテーターコメント）】第２回

グループ１は、本だけではない、やりたいことができる場というキーワードが印象的だった。グループ２は体験できる場という点と、図書館の基本である蔵書の充実という話があった。グループ３は、ゾーニングについて話があった。本を通じてのマッチングというのがユニークなアイデアだった。グループ４は、世代を超えた場所・情報サービスは図書館だからこそできるという話があった。また協働のプラットフォームをつくるという話があり、このワークショップ以降も議論を続けていくことが大事というのは重要な意見と感じた。グループ５からも協働のパートナーという話が出ていた。「看板をとっても横浜市の図書館だとわかる」というのはとても大切な観点。この場で終わらないように、今後も市民自身が関わっていくことが大事だと感じた。

３－(1)　第３回　グループ発表

【発表】第３回・グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- 特に盛り上がった部分として、学ぶことができる図書館という点で、そもそも自分が何を学びたいかわからない等、目的がなくてもとりあえず図書館に行ったら何かを学べる、知りたいことが知れるということができるといい
- 司書の方が色々教えてくれたらいい、という司書の方への大きな期待が色々と出た
- レファレンスは少しハードルが高いので、レファレンスよりもざっくりとした抽象的な質問をしても答えてくれたり、アイデアをくれるのがあるといい
- レファレンスとは別なコンシェルジュ的なサービス。自分の幅を広げてくれるようなサービスがあればいいのではないか
- 昔ながらの図書館として、静かに読みたい、自分で勉強したいという方もいるし、賑やかな場所で交流したいという人、それぞれいていい。それをゾーニングとしてそれぞれの人が自分のいたい場所を選べるようになっていれば、その２つが両立できていいのではないか
- 情報へのアクセスということで、本がもっとすぐにいつでも読めるといい。１区１館ではなく、もっと図書館がほしい。すぐに行ける距離にあるといい
- みなさんの意見で感じたのが、司書への期待がすごく高いというのは、ちょっと意外な発見だなと感じた
- できるできないは別として、せめて土日の開館時間をもう少し伸ばしていただけるとすごくありがたい

【発表】第３回・グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- グループ内に学校司書が 2 名いたことが特徴的だった。利用者の目線とそれを支える側の目線でディスカッションできたのが面白く、盛り上がった
- 本好きの方がこれまでどおり読みたいときに読みたい本を読めるということを確保したうえで、新しい活動をやっていけるような場、それを支える図書館、という議論が盛り上がった
- 本がある場と交流する場が一緒にあることで、学術的な面でもよりはかどる
- ホットケーキの型を貸し出す外国の図書館等があると聞いた。暮らしのレベルアップ
- 多文化交流。横浜市の特徴として外国のバックグラウンドをもった方もたくさんいるので、誰でも使える、交流する場が保証されている図書館
- 横浜の図書館は自動貸出機がない。コロナでの非対面が増えたこともあり、非対面の自動貸出機があれば図書館に行くハードルが下がる。予約した資料を司書に声をかけなくとも自分で取れたら嬉しい
- 先のグループの発表にもあったが自分も開館時間の延長を望んでいる

【発表】第３回・グループ３　選択テーマ：子育てと図書館

- 親子で楽しめるサービスとは、本以外にどんなメディア・資料があればいいか、について話をした
- 子どもを安心して連れて行ける場所とは、ある程度人の目がある。管理者や図書館員の方の目がちゃんと届くといい。ちょっとアドバイスしてくれるといったサービスがあるといい。
- 広いスペースがあるといい。裸足で上がれて、飲食できるスペース。公園のような場があるといい
- 子ども連れ向けの設備、子ども用のトイレ等について
- サービスとしては、検索をしやすいこと、身近にあり、すぐアクセスできること。大きい綺麗な図書館もいいが、子どもが一人でも行ける、地域の小さい図書館もあるといい
- イベントについては、絵本づくりや読み聞かせ等が出た。子どもがやる、自発的に表現するものもあっていい
- 本以外の資料・メディアについては、アートや写真集等が出た。
- 巨大なチェス、知育玩具、将棋等、多世代の交流が生まれると子どもにとってもいい
- 人口当たりの本の数が少な過ぎる。行ってもいい絵本がない。本の数を増やしてほしい

【発表】第３回・グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- 6 人のメンバー中の 3 人は何十年と長く横浜に住んでおり、3 人は 1、2 年で引っ越した方。両方の視点があったのが非常にユニークであった
- 図書館が「館」だけで留まらない。地域の外にもつながったり、地域の外でも触れられるようなかたちになると、図書館が地域に伝わるし、地域の魅力も図書館に情報として集まってくるのではないか
    - そのアイデアとして「スーパー司書」。司書職の人だけではなく、まちのなかで、たとえば「海については何でも知っている！」という人は立派なスーパー司書。そういう人がまちなかにたくさんいる
    - 企業の多様性というのも横浜市の特徴。本社のある大企業から、小さな会社までいろんな会社があるので、そういった事業者、さらには個人も含めて、「スーパー司書」ができる人がいるといい
- 情報がどこにあるかわからない。観光センターに行けばあるし、図書館にもあるけれど、あっても伝わらないという現状があるのではないか。図書館の蔵書検索が使いこなせない等の問題もあるので、伝わる努力をもう少しないといけないのではないか
    - 図書館とまちをつなげ、広げていくために、いちばん大事なのは結局「クチコミ」。インターネットは手段としては有効だが目的ではない。最終的にはクチコ

ミで人と人とがつながっていくことが、図書館と地域を考えたときに大事

- 本と関わりたい人が来られるようにするのに、情報が足りない。広報だけではなく、使った人が気楽に「こういうことをしました」「調べられました」「結果こうでした」と発信したり、それが皆から見えるといい

【発表】第３回・グループ５　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- まちの魅力として、他の自治体の公共施設とを比較することで改善できる点や目指す先などをどういうものだったらよいか、話をした
- まちの魅力として、わかりやすいランドマーク的なシンボルをつくる
- 誰もがいつでも使いやすく利用できるための時間の解放
- サードスペースとして居心地のよい空間であることで、生活の一部になる図書館を目指す
- インプットとアウトプットが同時にできる場として交流もできる場として子どもも集う場、人の好きを聞いて、興味でつながる
- 横浜らしさとして大学連携、交流、既存の地域資源を最大限活かすための連携
- 図書館からの発信
- 大きく改変しない、スモールスタートでもよい

３－(2)　【全体講評（ファシリテーターコメント）】第３回

グループ１は図書館基本的な考え方である学ぶことについてが印象的だった。社会が複雑化していくなかで学ぶことをアップデートしていくという話がでていた。そこに司書への期待の大きさも感じられた。コンシェルジュのように司書に話しかけやすい環境づくりは、図書館をより身近に、魅力的にしていくために有効な手段の一つと感じた。

グループ２も、読みたいときに読めるという図書館の基本があった上で、新しい活動を支えるという話が出ていた。本から活動につながるし、活動から本につながることもある。双方が入口になると思う。そのためには工夫が重要。

グループ３では「公園」というキーワードが印象的だった。図書館と公園は類似性があり、図書館と公園の連携の可能性もあるのではないか。

グループ４では、図書館が施設内に留まらず、地域に広がっていくというなかで、人々の役割の重要性について話し合われた。職員だけでなく利用者や、企業で働く人等が口コミなどでつながっていくことが重要だという話があった。

グループ５では「ランドマーク的な図書館」というキーワードがあった。横浜にはたくさんのランドマークがあるが、図書館は、今はまだランドマークになっていないということだと感じた。建築物としてのランドマーク性だけでなく、横浜であれば活動そのものがランドマークになる可能性もあるのではないか

４－(1)　【発表】第４回･グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- 瞑想のスペースがあるといいのではないかいう話が出た。図書館は、本を読みに行く、勉強をしに行く、あるいは、交流する等の活動が目的となっているが、そうではなくて、ただ 1 人になって、瞑想してリラックスしたい、皆さん忙しい中で、リラックスできる空間があるといいのではないかというような意見があった
- 人目を気にせずにいられる場所であったり、深呼吸をして体をほぐせる空間といったい意見もあった
- このグループは学校図書館の司書の方や読み聞かせのボランティアの方もいて、子どもに関する話もたくさん出た。特におはなしの部屋の必要性について議論になり、セッティングをしなくても、すぐに読み聞かせができるような部屋や、子どもの目線の本棚であったり、子どもが安心できる場所があるといいのではないかという意見や、子どもの可能性に光を当てるということで、子どもがやりたいことができる場所になるといいのではないかというような話が出ていた
- 司書の方に気軽に質問ができるといいのではないかいうことで、今のレファレンスカウンターだと少し聞きづらい。カウンターに行って聞くほどのことでもないようなことでも、気軽に聞けるようになるといいなという意見があった。大学生の方がいたが、例えばレポートについてちょっと意見を聞きたいとか、気軽に聞けるようになると良いのではないかという議論があった

【発表】第４回・グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

- 大学院生、都内の図書館長、元教員とさまざまな図書館に対して思い入れのあるメンバーが集まっていた
- 電子書今までの本を読む伝統的な図書館を重視するべきか、新しい図書館、海外の図書館のような先進的なところを目指していくべきか、という議論で盛り上がった
    - 籍については、電子書籍がいいのかという議論から入って、結局図書館で重視しているのは出会いというところで、偶然の情報との出会い、人とのつながりが大事になってくる。新しい図書館でも生まれるといいと話していた
    - たとえば本屋に行くと雑多な情報があって、自分が出会いたいと思ったもの以外にも色々目に入ってくるという良さがある。図書館でも本や人との出会いが取り入れられたら面白いのではないか
    - それを実現するためには、色々な図書施設が横浜市にはあるので、学校の図書館や本屋さん、まちなかの商店街のなかに本を置くスペースをつくったりもできるのではないか、そういった連携の仕方ができるのではないか、という話が出た
- ソフト面では、いろいろな専門家の方が図書館に来て、日替わりでたとえば月曜日はケアマネージャー、火曜日は弁護士、水曜日はパティシエといった、いろいろな方に参画してもらっていろんなサービスが提供できたら面白いのではないか
- そういったサービスによって、最終的には図書館の貸出につながっていく。だから新しい図書館というのはいままでの伝統的な図書館が、より補強されていくかたちで進

化していくものを期待したい。図書館関係者の方も参加されていたため、図書館の専門的な話まで広がっていた。図書館の資料や情報はどうあるべきかという議論があり、紙の本と電子書籍それぞれの側面について触れられていた。またどのような場所に資料があるとアクセスがしやすいかという点についても意見が出ていた

- 図書館に司書以外の専門の方を配置するというアイデアがあり、人を採用するだけでなく、既にある公共施設との連携などの意見も出ていた

【発表】第４回・グループ３　選択テーマ：子育てと図書館

- 行きやすい立地ということでは、徒歩圏、雨に濡れない、という話があった
- 一方で横浜市は広く、みんながみんな行きやすいところにはつくれないので、解決策として、ある程度の時間を過ごすほかの目的の場所、たとえば広い公園、病院等に図書館が併設されているといいという話があった
- 図書館内の話では、走り回れる、食事ができる、寝そべることができるといった自由な図書館であること。安全で、清潔で防犯性がある
- 子育ての資料・メディアというところで話が集中したのが、本物がある、ということ。本は情報、バーチャルなので、たとえば自然・虫・動物・アート・楽器等、本で見たものがすぐ目の前に本物があるというのがいいのでは
    - モノだけではなく、実際に活動している人、たとえば編み物をしている人や料理をしている人、それも一つの本物なので、そういう活動が見られるといいのではないか
- 経済的支援として、親が家で買えないものがあるといいのではないかという話が出た。家庭にもよるが、経済的に困窮していると、たとえば受験の参考書も買えないかもしれないので、親が買えないものがここにあるといいのでは
- サービスについては、本の並び方ということで、いまは作者別だが、子どもは作者では選ばないので、テーマ別・対象年齢別に並んでいるといい。そうすると、たとえば同じ年齢の子どもをもつ親がそこで出会えて、親の交流にもつながる。それから多様なイベントがあったほうがいい
- フリースクール・学童保育のような、放課後あるいは学校に行けない子どもの居場所が図書館に併設されているといい、ということで子どもの居場所というのが挙がった
- 保護者の育休中、あるいは復帰したあとのセカンドキャリアのロードマップがイメージできるような情報があるといいという意見があった

【発表】第４回・グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- 図書館をホーム化することが、市民一人一人の生き生きした暮らしに繋がっていく
- 図書館の居場所や本のぬくもりなど、物理的な近さや居心地の良さ、本が繋ぐ交流などが地域資源には見出された。その居場所や本の魅力等は司書や保育士、どこにあるのかということも重要。また概念的なネットーワークとしても図書館の魅力もある。

- 学びの場として本だけでない体験や活動、実験等ができる場があることで、情報を学びに活かすことができることは地域資源としてもとても重要だという意見がでた。
- 本だけを情報をとらえず、アーカイブしながら、発信もしていくことでインプットとアウトプットを同時する図書館像も伺えた
- ハードの図書館だけでなく、概念的な図書館との両方が図書館の未来像ではないかという話もでた

【発表】第４回・グループ５　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

- 図書館に関心をお持ちの方で詳しい方が多く、いろんな意見が出た
- 図書館なので「本」が大事だが、「本」とは何だろうという問いに対しては、本だけでなく情報もモノも、という話だったり、あるいは本・メディアだけではなく、困ったときに行ってみように応えるというのは、それはそもそも「本」ではないか、という話もあった
    - パソコンとタブレットだけの本のない図書館があってもいいのではないかという話もあった
- 図書館に魅力があれば、本当にまちは魅力的になるのか、という問いに対しては、それはそうだ、と一斉に返ってきた
    - 図書館の中だけだと、図書館・本の好きな人は来るけれど、そうじゃない人たちにはどうやったら届くか、という問いに対しては、旭区のリブライズという仕組みがあり、いろんな店や個人の場所の書棚を図書館として登録して開いていくサービスがある。全国でやられているサービスだが、そういうのも図書館だと。図書館に行く習慣がない人にとってもふれる機会があると、いう話がたくさん出た
    - 地元の地域の川についてみんなで考えよう、といったときに、景観の話だけではなく環境や人の営み、産業等いろいろなことが出てくる。そういった、川について考えるイベントが、そもそも何かを考えるきっかけになり、それを図書館が資料や、何かと何かをつなぐことで支えれば、まちと図書館がつながることになるのではないかという話があった
    - まちのなかにいろいろあるタッチポイント、図書館につながるようなきっかけがまちのなかにあると、図書館が魅力的になるし、まちも魅力的になる
- このワークショップで終わってはまずいよね、という声が参加者からあり、自分もそう思っているし、今後もつながっていけばいい
- もっと予算を、という話。これは、要望ではなく理由がある。ここで説明はしきれないが、みなさんのなかにそれぞれちゃんと理由あって、最後に伝えたいという言葉として出てきた

４－(2) 【全体講評（ファシリテーターコメント）】第４回

グループ１は、司書の人に気軽に聞ける、司書の力を生かすという話があった。やはり司書が核になることで魅力的な図書館になるということを再認識した。

グループ２は「本との出会い、人との出会い、偶然との出会い」というキーワードに議論が集約されていた。大きな本棚があり、たくさんの蔵書があるというスケール感はまさに図書館にしかないものだと思う。本との偶然の出会いは、本当に偶然の出会いなのか、なにか仕掛けが必要なのかという点についても考えることも必要ではないか。

グループ３で印象的だったのは子どもの自由について。子どもが自由な場面では親が不自由になっていることもある。保護者の視点も重要だと感じた。子ども・保護者両方の視点で議論するとともに、利用者である子どもの意見を聞くことも必要と感じた。

グループ４は、図書館と書店の違いという視点で議論があった。「図書館のホーム化」というのは、「ホーム」の捉え方は幅が広く、一人一人にとって居心地が良い場所にするという点で、とても良い考え方だと感じた。住民が生き生きとした暮らしがあることがまちの魅力であるというのは納得感があった。

グループ５も含めて、図書館を日常的に利用したり、運営に関わったりしている人が多く、ワークショップにもそういった方が多く参加されている。それ自体が横浜にとっての地域資源であろう。横浜市はいち早く「共創」に取り組んだ自治体でもあり、今後の図書館を考える上でも重要なキーワードになると感じた。

2　各回の議事要旨

第１回･グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

グループ対話

居場所としての図書館

- カフェの併設や、公園の隣にあると帰りに立ち寄れる
- アクセスの便利な場所。駅近
- 自転車なので天候によって行けない。わざわざ予定を立てて行く場所
- サテライト型の駅前ライブラリー。図書館の出先機関が駅前にあればいい
- 建築価値のあるもの、観光資源になる図書館をつくっていただきたい
- スマホの充電、外部との連絡。気兼ねなく話せる部屋があってもいい
- 机、PC、AI 等が自由に使える場所
- サードプレイス。図書館に行き、喫茶店に寄って帰ってくる、という生活になっている人もいる
- 毎朝新聞を読みに来る高齢者は、新聞代を惜しんでいるのではなく、そこまで行くという散歩を兼ねている。高齢者にとっての目的地となる場所
- 一人用の個室（半個室）。不登校の子ども等、オープンスペースが苦手な人もいる
- 学生にとっての図書館は、まじめでお堅いイメージがあって行きにくい

- 気軽に悩み相談等ができる場。そのついでに本もおすすめしてもらえるといい
- コミュニティハウス・地区センター等にも蔵書が多くある。図書館だけではなく、連携してできるとよい

交流することができる図書館

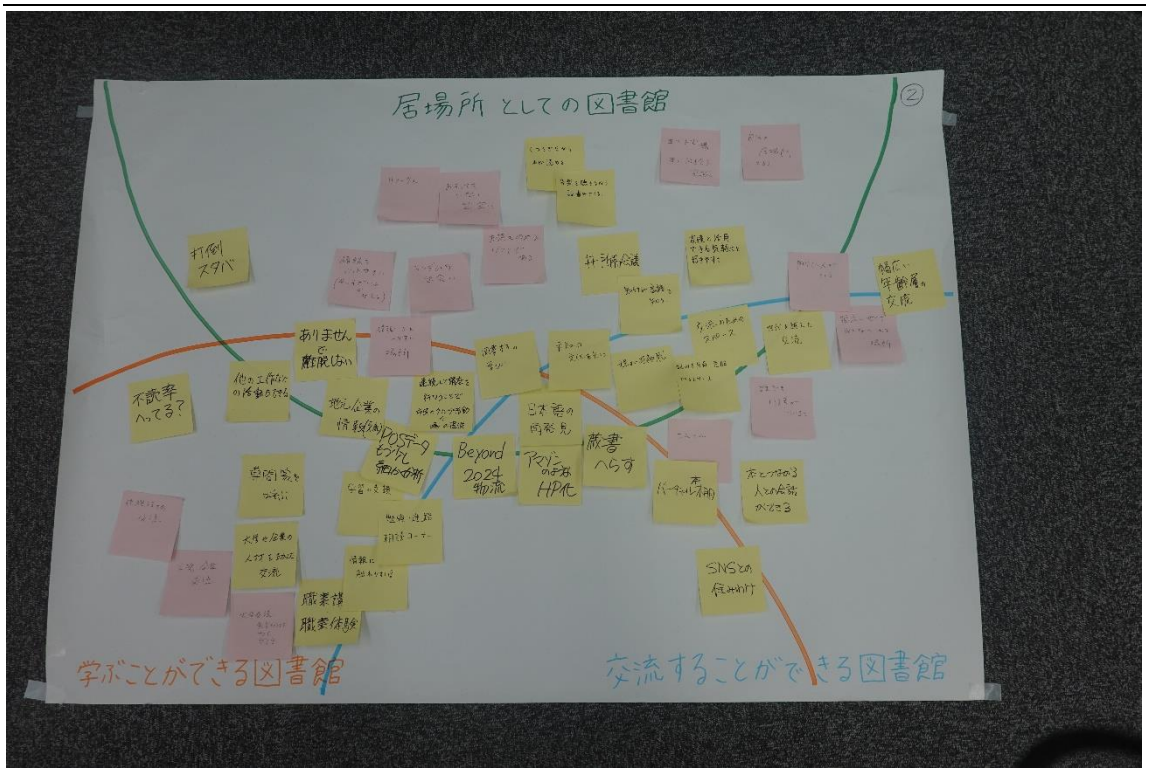
- 本に関するイベントの実施。絵本のなかのお菓子づくり、手づくり絵本講座等
- イベントのできる小さいスペースがたくさんあるといいのでは
- 科学の本に載っているような、実験等もできるとよい
- 映画上映をして、感想を語り合いたい
- 市民による自主企画の実施
- 倉庫のような空間に本があって、頼んだ本が図書館に届く。図書館自体はほかのスペースとして活用する
- ズラッと本が並んでいてほしい
- 一人でもみんなでも楽しめて、みんなで楽しんだ後に一人になれる場
- 1 階は交流の場、2 階は静かに読書したり学習したりする場
- テーマに沿ってアイデアや想いを付箋で貼っていけるボードがあるといい
- 「対話はタブー」「静寂」を捨てる
- 移動図書館があるのを知らなかった。地域のお祭り等に出たらいいのではないか

学ぶことができる図書館

- Twitter や YouTube で司書さんとつながれる
- 推し司書さんや応援している司書さんがいるといい
- 私は 90 年代のバンドが好きで、そういった音楽や趣味も「まなび」としてとらえられるとよいのではないか
- 未来のアイデアとして、AI ロボットが本をおすすめしてくれる
- 情報のインプット・アウトプットでネットを使いがちで、本屋は売れているものしかない。司書や地域の人のおすすめの本から、興味外のことを知る機会を持ちたい
- 起業支援、スタートアップビルドとして、モノづくり等の企画をして、それが先につながるような支援がその場にあれば起業家も多くなるのではないか
- 学びの場。寺子屋。ディベートルーム（防音）で近くの子どもたちに日曜学校として教室を開く

以上

第１回･グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館



グループ対話

居場所としての図書館

- 他人との程よい距離感を保てて、静かにリラックスして本が読める空間は残したい
- 電子書籍など、本だけでなく情報をもっと活用できるような場所になってほしい
- 密室ではない、外から様子がわかり、ある程度仕切られた空間
- 音をだしても気にならない、シーンとしていない空間
- くつろぎながら本が読めるスペース
- 集中して読書、調べ物ができるスペース、とホッとできるスペースが分かれている
- 自習室の多い図書館。座席数が多くてテーブルが広くて明るい
- 安心＝快適な居場所
- 駅前にあってついでに寄れる場

交流することができる図書館

- 利用者の知り合いや友達と一緒に利用できるように、話し合ったりできたら嬉しい。そんな空間づくりをしたい
- 外国の方との交流ができる場所。語学や文化などを知りたい。
- 講座開催や市民のグループ活動の場の提供

学ぶことができる図書館

- 図書館のすぐ横に学習室やスペースをつくり、集中できる環境や調べ学習、休憩時間の時に気軽に訪れられるようにできる
- 図書館だけでなく、地域での職業などと関わって未来の人に繋げられるような体験や話を聞けたりするような場をつくる
- 学生が将来について相談できたり、進路相談などできるような職業講話などできる
- 本を読むだけでなく、子供が楽しく工作などができる、本を活用しながら楽しむことができる
- 勉強の質問ができる機能。勉強方法を共有したり、面接の練習ができる
- 蔵書を減らして、本を読むだけじゃない、人の経験を聞いたり、体験ができる場
- 本棚みたいな画面でバーチャルの本を手に取れたらいい
- テーマを決めての展示（自分が興味なくてもふと立ち止まって手に取ることのできるような出会いがあるといい）
- 検索した結果「ありません」で終わらせない。年代や性別、利用時間や検索結果など、情報をきちんと活用すれば、少ない蔵書であってもニーズにあった蔵書となるのではないか

以上

第１回･グループ３　選択テーマ：子育てと図書館

グループ対話

安心して子どもを連れていける場所

- いざという時に頼れる人がいる
- トラブルに対応できる人がいる→万が一のことが起きた時のフォロー
- 保育士さんがいる
- 様々な世代の人が声をかけあえる場所
- カフェが併設されている
- クッションや角を保護するもの等、子どもたちが動き回っても安全に見守れる環境
- 清潔でぬくもりのある空間（来館して気持ちよい）
- きれいな自習スペース＆トイレ
- 声が出せる部屋（親子のコミュニケーション。子どもがのびのびいられる）
- 館内にあそび場があると小さな子でも足を運びやすくなる
- 親子で出かけてもそれぞれが好きな場所で好きな事をして過ごせる場所
- 中庭スペース

親子で楽しめるサービス・イベント

- ストーリーテリング　お話の世界を楽しむ機会づくり

- おはなし会（子ども向け、親子向け、大人向け）
- おはなし会では、本の紹介だけでなく参加者同士の交流があり、お母さんの孤立を防ぐ
- 自分のおすすめ本の紹介コーナー（自分の場所が図書館にある。人に共有できる）
- ビブリオバトルで本を掘り下げてよむ力、人に魅力を伝える力を養う
- 絵本作家ワークショップ、講演会（本の世界を体験する、作者を知る）
- 著名人のワークショップ。ヤングアダルト層も興味が持てる。出会いの場にもなる
- 読みたい本が読みたいときに借りられる。蔵書数が少ない
- 本の並べ方。誰にでもやさしい本棚。ＮＤＣ（日本十進分類法）にとらわれすぎない

子育て・子育ちにいい資料・メディア

- 科学実験、天体観測、音楽鑑賞
- 親と子が共有できるイベント。一緒につくったり、体験するイベント
- 大型絵本がたくさんある
- ボードゲームで遊べる、借りられる
- 子育ての情報基地的な役割。悩みに対して資料の紹介や、施設の紹介など
- 五感を刺激できるもの。肌ざわりの違うクッション、形の違うイス
- 音楽雑誌、アニメ雑誌、ゲーム雑誌の充実は、ヤングアダルト層へのアピールにも
- 展示スペースの活用（デジタルでも実物でもテーマに沿ったものを深く知る）

以上

第１回･グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- まちの魅力とは、まちと関わる人の魅力
- 著名な建築家やデザイナーに依頼して外観・内観をよくする
- 設備をよくする、お金をかける、ではなくて人に資本を当てて、人材という意味で魅力を伝える
- 図書館には「静かに本を読む場所」という先入観があり、いまの延長線上ではどうしても、この概念から外れないのかと思う
- 子育て施設等を併設にすると、みんなでもっと楽しく、ワクワクできるものに変えていくこともできるのではないか
- 図書館は自由に出入りできるが、ほかの本を置いている施設は入館の手続きが面倒。図書館、本のほうから市民に寄り添ってもらえると、触れ合いやすい。本というものを、もっと身近なものにできるとすごくよい
- 図書館では子どもの泣き声にも気を遣う。司書と保育士の両方の資格をもっている「司書保育士」というのがあったらいい。そういうのがあれば自分がなりたい
- 子どもたちがまちの魅力を発見しに行くイベント。まちを探検してみんなで辞書をつくっていく

- 公園での本の読み聞かせや、地域の自治会等のお祭り等での紙芝居があってもいい

地域資源と図書館

- 横浜市に関する本をざっくばらんに図書館のコーナーに集める
- 小学生から高校生までを対象に情報のリテラシー教育を行う場にして、そこで人材育成を培う
- 目標としては、情報の発信地。生きた新しい地域の情報。公やメディアに出てくるものではない地域の情報によって地域が動く、人が動くと金が動き活性化する
- まず資源が何かというのを定義して一覧化し、それをタグ付して参照しやすくするような、データベース等がつくられるとよい
- そもそもレファレンスを知らない利用者もいる。特に子どもは知らないと思うので、もう少しレファレンスカウンターに気軽に行ける雰囲気にする

つながりづくりと図書館

- 居住されている外国人の方と、各国の翻訳版の書籍を使ってブックトークをしたり、外国語教室等で、国際交流の場をもちたい
- 子ども・大人の知的好奇心の情報のコンサル。「この人に聞いたらいい」という人の紹介や、スペシャリストになるための道筋をアドバイス。地域の人がどんどんスペシャリストになっていき、地域の人がお互いに教え合えるようになるといいと思う
- 子育て中のお母さん、お父さんが気軽に育児の話や悩みを話せる接点があるとよい
- シニア世代は、図書館でボランティア等、働ける機会があるといいと思う

以上

第１回･グループ５　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 映像を見ることができるスペース。映像で地域の魅力を発信できる場にする
- 居場所づくりのひとつとしての「スマホ講座」。若者から高齢者、外出機会が少ない高齢男性も出てくるような講座
- 図書館にシンボリックな要素があると、一つの魅力的なスポットになる
- 徒歩圏に私設の公共図書館がたくさんあること。公共図書館が連携していってほしい
- まちの魅力とは。誰かに会える、リフレッシュできる（飲食 OK)、やりたいことができる、マナー・多様性が学べる、助け合いができる、高齢者の徘徊を見守る、世代を超えた交流ができる、一人にもなれる、子どもの見守り安全など

地域資源と図書館

- 地域の人と人が出会う場所。好奇心、知的欲求が似通った人を結び合わせるようなことができると面白いのでは
- 旅行者（近隣・外国の方）への知的・文化的・歴史的観光案内があるとよい
- スキルやリソースのある外国人を活用する場になったらよい。日本語教室に来る方々のなかには素晴らしいスキルを持っている人が多くいる

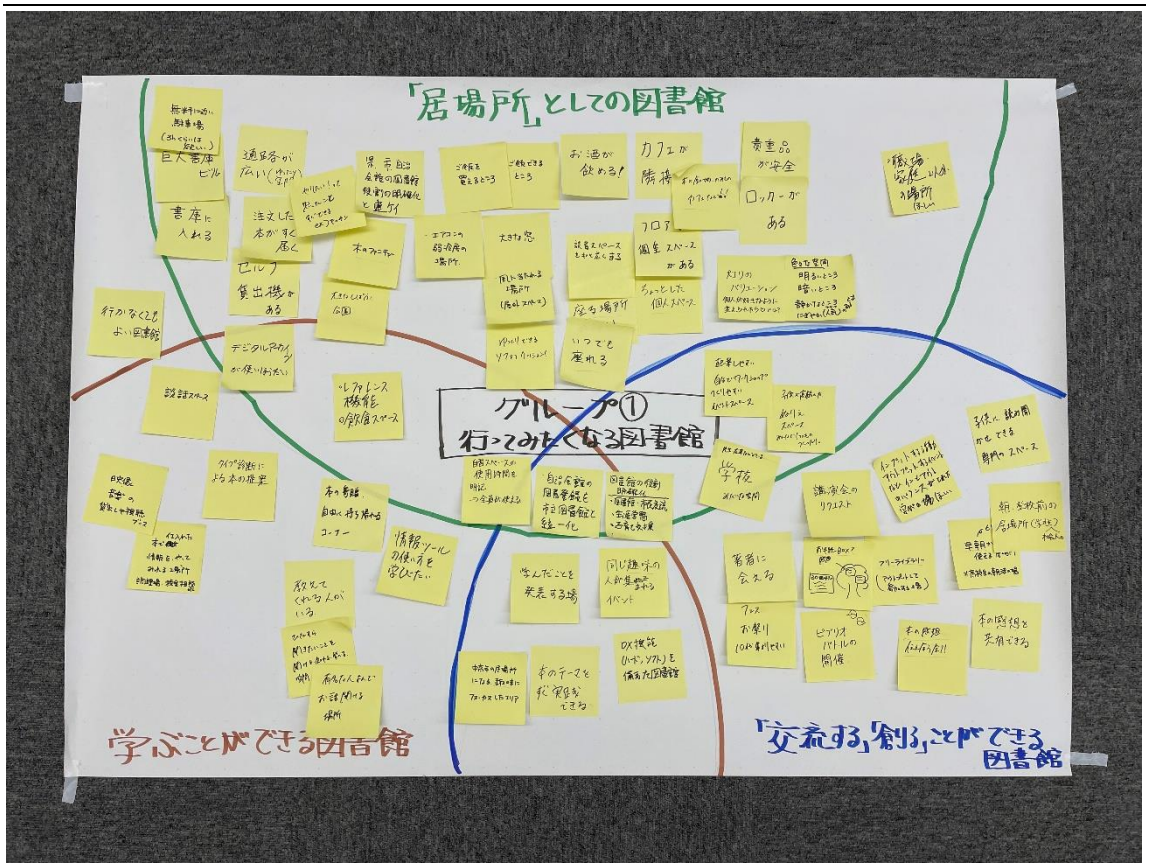
- 地域の資源、歴史を残すというと、すごい量が集まるので、地域のアーカイブが必要
- 大学の図書館は公共図書館と違い、スタジオや 3D プリンター等、いい資源がたくさんある。連携できると良いのでは
- レファレンスについて。文章をつくるのが苦手で、人に聞くのはハードルが高いので、フォーマットをつくって聞きやすくしてほしい

つながりづくりと図書館

- 本を中心にして出会いの場をつくる。カフェ等のスペースに、図書館の本をまとめて貸し出す。まちライブラリーへのセット貸し
- コロナでリアルなコミュニティが少なくなった。リアルなコミュニティとして図書館が何か使えないか
- 話し合いができるスペースと、静かにするスペースをつくることで、人との関わりを重視することにつながる
- 外国籍の子どもたちは、早く日本語を覚えられるが、お母さんが孤立してしまう。お母さんも含め、みんなが日本語を勉強できるような居場所ができたらよい
- 障害のある子どもたちが安心して過ごせる場所がほしい。お母さんたちも本を読んで、子どもたちが走り回れるような安心できる場所
- 一人暮らしの高齢者で犬を飼っている人たちは、犬が心配で出かけない。犬と一緒に行ける図書館があると、高齢者が閉じこもりっきりにならないのでは
- 鍵っ子への対応。両親の共働きの家庭にとっては、子どもたちが夜でも気軽に行ける図書館があるとよい
- お金がない子どもたちは塾にも行けず行くところがない
- 図書館に来館されるホームレス、高齢者、障害者の方の中にはケアが必要なかたもいるだろう。ケアは司書の専門性と違う側面がある。リンクワーカーのような方に図書館に入ってもらうことで解決できるのではないか
- 商店街のイベントの運営に関わった際に、みんな良い情報を知っているが、共有していないので、もったいないと感じた。各自がもっている情報が交換できるとよい
  図書館の職員さんと仲良くなると、もっと行きたくなる。利用者と館員とのコミュニケーションは魅力の一つで、つながりとしてよいと思う

以上

第２回･グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館



グループ対話

居場所としての図書館

- 本だけではなく、カフェや食べ物、芝生や公園等、図書館だけではないほかの理由がないと人は集まらないし、いろんな人たちの居場所にはならない
- 閲覧席について、使用時間を区切っておけば、あとに使いたい人も全員使えるのではないかと思う
- 心地よく過ごせる、行くとリラックスできるスペースに図書館がなるとよい
- 自分が好きなことをより突き詰められるような空間があったらいい
- 中央林間の図書館はカフェが隣接しており、「シーンとしてなくてはいけない・喋ってはいけない」というこれまでの図書館のイメージを覆された。子どもの声やカフェの話し声もまったく気にならず、むしろ居心地がよかった
- 行って感動する、エンターテインメント的な、旅行で行きたくなるような図書館があったらいいと思う。石川県立図書館など。

交流することができる図書館

- 子どもと高齢者の共通点として思いついたのは、「塗り絵」や「絵を描く」こと。年齢制限を決めず、それ専用の場所をつくる
- 図書館で、誰でも集まれるWSを開催して、自然に人が集まれるようにする
- 間接的な交流として「お手紙BOX」の設置。「〇〇という本を読んだ方へ」というように、相手を指定せずに書いて、壁等に貼って、交流ができたらいい
- 静かめのお祭りやフェス等をやると、10代等の本を読まない世代も来やすいのでは
- 高校生がPCを使える場所、登校前に勉強したり議論したりする場所を探していると聞いた。朝7時くらいに開いて登校前に使える場所があってもいいのでは
- 介護世代と子育て世代には温かい政策が多いが、中間の世代へのケアは少ない。中年の人が第2、第3の人生に向かっていけるような居場所。趣味の本を集める等
- 子どもが本を読まないのは、大人が楽しそうに本を読んでいる姿がないから。小さいときから来て楽しかったとか、大人が図書館を楽しんでいることが大事ではないか
- お酒が飲めるといい。飲食があってもお酒が飲めるところはあまりないので、朝からでもお酒が飲めれば、ゆったり時間を過ごせるのではないか
- 室内の明るさも人によってニーズが違うと思う。場所によって明るさの差をつけるとか、静かな場所とにぎやかな場所等、フロアごとに特徴のあるといい
- 図書館の外に巨大な書庫を建てて、利用の少ない本はそこ一箇所に集めて、その分スペースを空けて、人がいてのんびりできる場所にしてほしい。本は配送すればいい

学ぶことができる図書館

- レファレンスの存在があまり知られていない。レファレンスの周知が大事ではないか
- 図書館で興味のある本を借りて、すぐにその場で材料も揃っていて実践できると楽しいのでは（絵や工作等）
- アウトプットする機会も必要。インプットとアウトプットのバランスがとれた、自分が参画できる活動の場があると、図書館がさらに充実するのでは
- 学びには「本」の学びもあるが、みんなで話すことで出るものもあるので、喋れる場所もスペースとしてあればいいと思う
- 定年退職した男性が「男の料理教室」。夜はそこを子ども食堂にしてもらう
- 税金・子育て・法律の無料相談とのタイアップ。何曜日に行けば本も読めて相談もできる、という連携ができているとよい
- どこにいても世界中の、有料・無料かかわらずいろいろなデジタルアーカイブの情報がいくらでも手に入る
- 借りた本をどこでも返せると嬉しい

以上

第２回･グループ２　選択テーマ：子育てと図書館

グループ対話

安心して子どもを連れていける場所

- 騒がしくても許される空間。どこかのフロアは騒がしくても許される、どこかのフロアは子どもが遊べる場、託児スペースがある、など空間を区切っても良いのでは
- お父さん・お母さんは基本的に疲れているので、生活圏内にあることが重要。たとえばショッピングモールの中など。喉が渇けば飲ませられて、お腹がすけば食べさせられる、ある程度安全に守られている場。生活の動線上にあるといい
- セキュリティがしっかりしており、子どもが一人でトイレに行っても安心
- 子どもがいると荷物も多いので、無料でロッカーに入れられて、裸足で上がれる小上がりのようなところに、大人の読める本もあるといい
- 学校でも家でもまちなかでもない居場所になるといいのでは。たとえば不登校の子にとって居心地の良い空間を図書館が担えるといい。もちろん安全面の確保は必要
- 子育て世代が孤立しないようにいろんな人と、安心安全に交流できる場所
- 集会室がほしい。ボランティアのための集会室が図書館のなかにほしい
- 駅近であっても、駐車場スペースは確保してほしい。現状、全然足りていない

- 緑の自然環境があったらいい

親子で楽しめるサービス・イベント

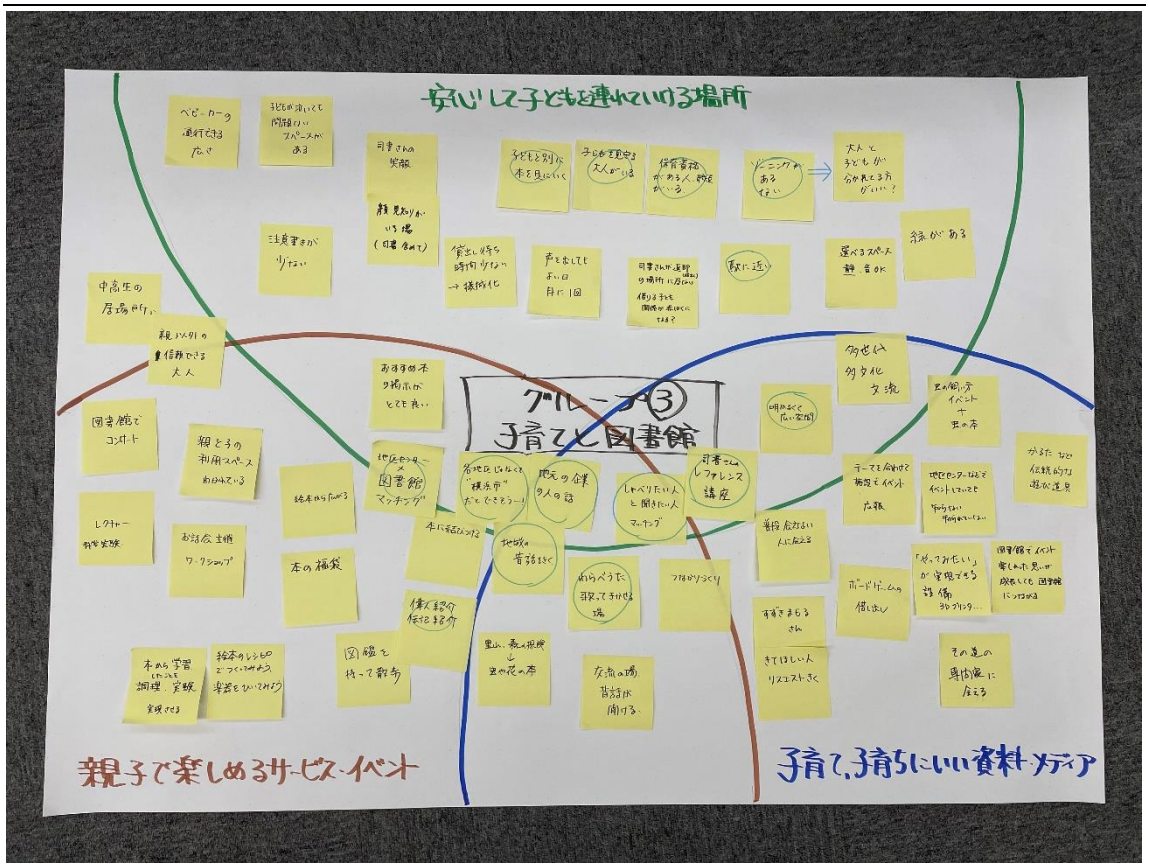
- ボードゲームの貸出
- コロナ禍でイベントを開けなくなったが、音楽と本をつなげるイベントがつくれるといい
- 博物館・美術館的な要素。本だけを読むのではなく、知的好奇心でつながるといい
- 国際交流のイベントがあるとよい。

子育て・子育ちにいい資料・メディア

- テーマパークの全画面に映像が流れるアトラクションのような、絵本の世界に没入できるくらいのもの。知的好奇心を刺激して本も読むようになる
- 大学生・高校生のボランティアによる学習サポートや、傾聴ボランティアの方がいて、本やインターネットではわからないモヤモヤが、行けば何とかなると期待できる場所
- 体験できる施設。本に載っている実験・料理・製作等ができるスペース
- STEAM教育が学べる空間があればいい
- 公共図書館の本を学校図書館で借りられる。家庭で公共図書館に連れて行ってもらえなくても本を借りられるサービスが必要
- SNSの使い方に関しては、いま親が子どもに教えることができなくなっている状態。親も学べるものがあるといい
- 横浜は、「横浜こども分類」という独自の分類をずっと長く使っており、NDC（日本十進分類法）とズレているので探しにくい
- 横浜は多国籍の子どももたくさんいるので、それに対応した言語の本
- シアタールームやプラネタリウム、郷土資料コーナーの充実
- 実物に触ることができるといい
- 子どもたちがお互いお気に入りの本を発表することで、自分の興味のなかった本にも触れられるといい

以上

第２回･グループ３　選択テーマ：子育てと図書館



グループ対話

安心して子どもを連れていける場所

- 子どもが泣いたり、声が出ても問題のないような場所が良い
- 「何々してはいけない」という注意書きが少ないと、親はとても安心ができる
- 1 フロアは交流スペースとして使い、もう 1 フロアは静かな本を読む空間という風にわけると開放的になり、図書館に興味のない方でも来やすいのではないか
- 明るくて広い空間がよい。広い空間は落ち着くし、大声もあまり出さないと思う
- 子どもが簡単に外に出ていかないよう、入り組んでいて出口も狭いと安心感がある
- 図書館に行ったときに司書やスタッフの方が、笑顔を向けてくれたり、話しかけてくれるのがありがたかった。
- 横浜市は中高生の居場所が少ない。解放されたスペースがあったら、他校同士でも集まりやすいのではないか。
- 中高校生の時、 学校にちょっと行きたくない、家にも戻れないような時も、図書館に行くと、安心感があった
- 親以外の信頼できる大人がいるとよい。現代は知り合う機会が少ない。子育て支援で

関わる方も、小学校に上がると途切れてしまう。図書館であれば年齢制限がない

親子で楽しめるサービス・イベント

- ボードゲームの貸し出しができて、さらに図書館でボードゲームをみんなで楽しめるスペースがあるとよい
- 本から学習の機会や、興味が広がる機会になるといいのではないか。本だけでなく、行動が広がるようなレクチャーや科学実験や工作等
- ぎふメディアコスモスのように、子どもが騒いでも「子どもの声は未来の声」のような意識づけで許容することは重要だと思う。子育てで気になるのは、周りの人がどう思うか。周りの大人の方が子どもを許容してくれる場所が必要
- 5 分でも、誰かにちょっと子どもを見てもらえると、自分の本を選ぶことができる

子育て・子育ちにいい資料・メディア

- その地域の方が、 自分の知っている昔話や、伝承等をお話するような場として、図書館を活用できると良い
- 体験と本が相互関係になるような取り組みができるとよい。体験からも本からも、両方の切り口から、さまざまなことに興味を持てる入口がある
- 海外の図書館のような「やってみたい」が実現できる設備があるとよい。3D プリンターとか、学校にはない設備
- 本を読んで疑問に思ったことを社会につないでくれるサービスがあるとよい。司書に相談したら、地域の専門的な人を紹介してくれる等のサービス
- 司書のレファレンスはすごく面白い。意外とみんな知らないので、司書がどうやって本を選ぶのかを伝える講座があったら面白いのではないか
- お話会や読み聞かせの会。コロナで少なくなっているのでそういう機会があるとよい
- わらべ歌は子ども達がとても反応する。わらべ歌もメディアのひとつではないか
- 普段会えない専門家に話を聞ける機会があるとよい
- 自主企画のように、こういう人の話を聞きたいというのを募集するのも良いのではないか。自ら立候補でもよい。そのテーマに関心がある人が集まる場になる
- 横浜は企業もいっぱいある。企業としても CSR の観点で積極的に子どもたちに知識などを寄与していきたいと考えていると思うし、PR にもなる
- まちにすでにたくさんある情報や場とのマッチングが大事

以上

第２回･グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 緑道等の都筑区の雰囲気が好きで緑道近くに越してきた。緑道のように、魅力的な図書館という場所があるというのも居続けてくれる動機づけになると思う
- 誰でも無料で入れて、好きなものが見つけられて、コミュニティの場であればいい。そこに行けば楽しいことがあるという魅力をつくるのが大事
- 楽器演奏など、家ではできないことができる。料理を教えてもらえる、モノづくり等、新しいスキルを身につけることで意欲的になれると思う
- 区の図書館の広さはいまの倍は欲しい。貸出だけで精いっぱいなので、いろいろな機能をつけるとすると少なくとも倍は必要。できれば北部に中央図書館クラスの横浜らしいものがあったらいい
- いま地区センターやコミュニティセンターが充実しているので、あえて図書館をつくるよりも、そちらを充実させたほうが具体的かと思う
- アーティストに入ってもらいかっこいい空間にしたい。そこに行って気分がリフレッシュしたり、脳が活性化するような空間に行きたい

- 駅の近くや交通の便がいいところだと、近くの人だけでなく市まちやほかの地域の人も来て、多世代だけではなく他地域との交流も増えて魅力的な図書館になるのでは

地域資源と図書館

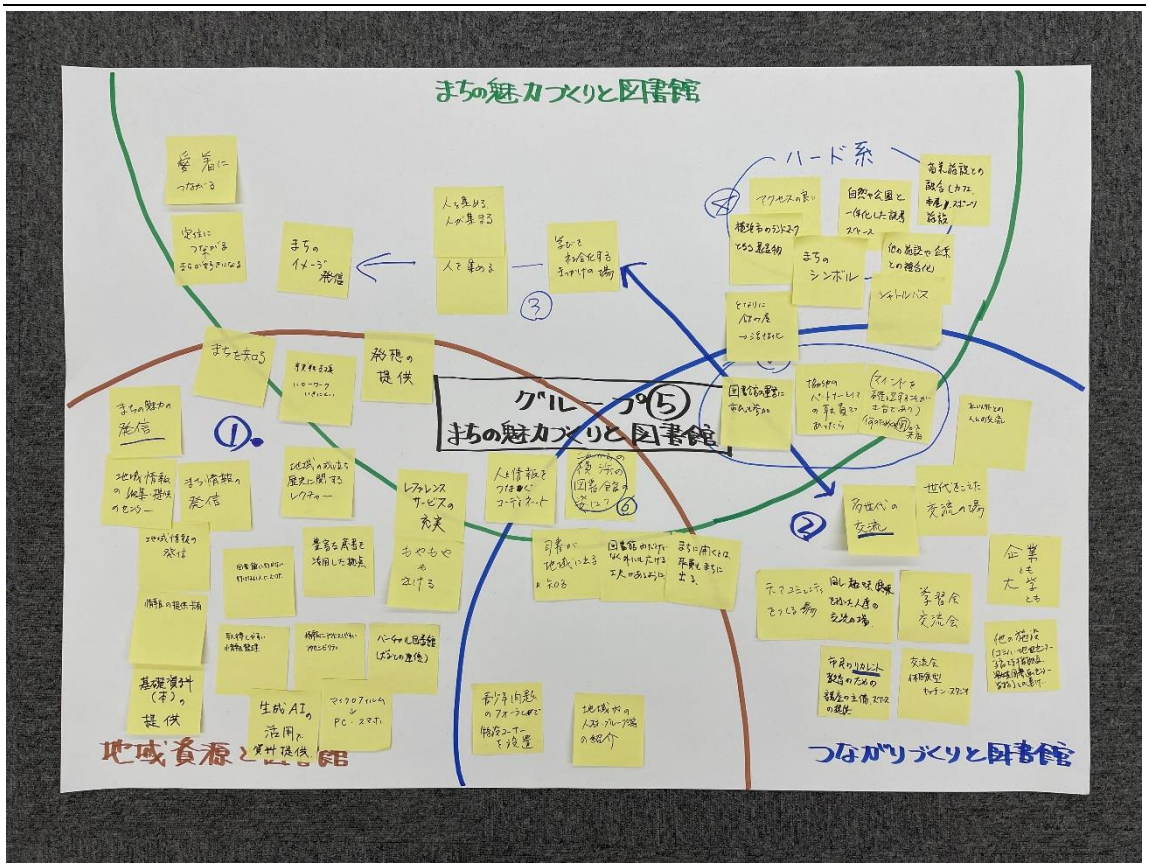
- 自分が読む本はだんだん決まってきてしまうので、もっと面白いものを知ることができる仕掛けづくり等があると、より惹きつけられていくのでは
- 図書館にはいろいろな情報があるが、どこを当たればいいかわからない。「レファレンスができる」ということをもう少しアピールするといい
- 学校との連携。小学校と離れているので、図書館同士が連携する
- 横浜市は子育て支援事業・青少年・高齢者・音楽・美術等が別々にあり、分断している。図書館は多世代が来るし、それをつなげる唯一の施設。図書館で機能を一括化できるといい

つながりづくりと図書館

- 多目的に使えるコミュニティルームがあってほしい。ラーニングコモンズといった機能が公共図書館には必須だと思う
- 「きょういく」（今日行くよ）と「きょうよう」（今日用があるよ）のための図書館になってほしい。安心して家族で行ける場所、というのは大事
- 「大人の夜学」はとてもいいと思う。仕事をしている人は夜しか行けない。いろいろな人がつながる。魅力的な人に会うチャンスがあるとよい
- 魅力づくりのためには、行政も横断するようなチーム等があったらいいと思う。市民・コンサル等を巻き込んでいく仕掛け
- 「人」のマッチングができるといい。一つひとつが独立して動いているのではなく、全体でつながって活動していくのがいい
- 図書館運営への市民参加。今日のような懇談会や図書館友の会、図書館協議会等。市民も自ら図書館とつながりをつくっていくことが大事
- 行政は「WSをやりました」「市民の意見を聞きました」、「だからこれで作りました」とやるが、これだけでは意味がない。

以上

第２回･グループ５　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館



グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 横浜市という看板がなくても横浜の図書館とわかることが本来の姿だと思う
- 図書館がまちづくりにどう貢献できるかというと、当たり前だが本の提供、本が基本。そこから教育、思考、思想、発想を超えたものを提供する場
- まちのイメージの発信、横浜をイメージさせる建物が根本になると思う
- 「横浜市のランドマークなる建造物である」という形から入ることも必要。ランドマークとして作る必要があるから場所も重要。
- 商業施設の融合化や複合化、カフェとか本屋、スポーツ施設など、いい本があったらすぐ買えるなど、一体化している図書館
- まちを知ることに、図書館が貢献できる。自分の住んでいるまちを知る。そして魅力を発信していく。地域の成り立ちとか歴史に関するレクチャーがやれるといい
- まちの情報がいくつかあるので、それを図書館でも発信。例えば、おもちゃ屋さんがあるよとか、いい飲み屋があるとか、そういう地域情報発信してもいいのかなと思う
- 朝とか夜とか、図書館に行きづらい人に向けた何かサービスがあったらよい

地域資源と図書館

- 図書館とは地域にとって大事な公共施設地域情報源。公共施設や大学など、様々な情報ネットワークの中心。学んだことを地域やまち作りに生かす場が図書館であり、それを仲介するのが図書館司書
- 地域情報の収集提供センター。職員の方が司書の方がもっと地域に出て、地域を知る。サービスを提供するという、一方通行じゃなくみんなでつくるというパートナー
- 地域資源として、自然や公園が東京都よりも多いと思う。だから自然公園と一体化した読書スペースや自然の中のランドスケープの中にあるといい
- 地域のグループや人材、子どもミュージカルなどを紹介できるというのも、図書館の役割ではないか。横浜市は文化系、スポーツ選手の方も多い。

つながりづくりと図書館

- リカレント教育のための講座を図書館として主催したり、場所を提供するとか。リカレント教育の場と捉える
- 世代を超えた交流の場。学びを社会化するきっかけになるということでまちづくりの方にとって、人と情報を繋ぐコーディネートがあるということではないか
- 地区センターとどう切り分けていくか、ちゃんと考えないと同じものが二つあってもしょうがない
- バーチャル図書館。ネットワークの中で、検索して電子図書に繋がるなど、横浜の図書館としてできることを示したい。横浜の大学と連動して推進してもらいたい
- 興味をテーマにした人たちが集まれそう。高齢の場合、趣味とかっていうのは大事、図書館が元々もっている機能である豊富な蔵書を活用する拠点
- 図書館は協働のパートナー。図書館の中だけに区切らず、外にも図書館がある、という意識づくりで居場所を作っているが、その心地よさはたまらない。図書館が外へでていくということを示したい
- NY図書館のような就職支援。ハローワークは行きづらいが、図書館がやってくれたらよい。地元の企業の人が図書館に来てくれて、会社の紹介をするといいのでは
- 本以外の人との交流と情報の提供の共有

以上

第３回･グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

グループ対話

居場所としての図書館

- 広くて明るい図書館。大きい窓から陽が入り、緑があると安心して本が読める
- 静かに本を読みたい、静かに勉強したいという人も絶対いると思うので、棲み分けができるようなスペースがあるといい
- いくつか図書館があって、ここは静かにする、こっちは賑やかにする、とすみわけできるといい
- 常に席が空いていれば、いつでもそこに行けば自分の居場所があると考えられる
- いま若い人の居場所がない。図書館に来て、本に触れて、自分の興味ややりたいことがみつけられる場所がつくれたらいい
- 中学生や高校生が、まちのなかで過ごせる場所が本当にない。図書館で友達と一緒に勉強したり、おしゃべりできるとよい
- 歩いて通えるところに図書館がほしい。小さい規模の図書館でいいから近くにほしい
- パソコン等も使えて、テレワークもできるように。確実に座れるような予約制
- 私はスーパー銭湯の読書コーナーがとても好きで１日中いられる。畳や体にフィット

するソファがあり、リラックスができる場所もあってもいいのではないか
- 図書館では本を借りなければいけない、というイメージが強いが、居心地のいい場所だともっと気軽にいける
- 土日の閉館時間が平日より短いのは使いにくい。近くの図書館も車じゃないといけなくて本を借りに行くのが億劫

学ぶことができる図書館

- 子どもと一緒に過ごせるスペースと別々に過ごせるスペースがあると安心できる
- 学びにはいろいろなカテゴリーがあるので、そのカテゴリーごとに本棚を分ける
- 漠然とした何がしたいということがなく図書館に来て、だけど何かを探したい場合がある。そういう人にとっての発見の場になるとよい
- 自分がまだ何に興味があるのかわからず、それを探しに図書館へ来て、本を見て、この先はどうしたらいいのだろうと思ったときに、例えば、専門の人に話を聞けるような場があると良いのではないか
- たとえば、VR ゴーグルのような、個人で買えないものがあるとみんなで使えて、感想を言い合ってつながれる場所になるかと思う
- 建築の雑誌等が見たいが結構高くて自分では買えない。専門分野の自分で買えないようなものが揃っていると、足を運ぶと思う。
- 一度図書館に行ったことがあるが、数年前の古い本しかなく、そそられなかった。最新のものがあると、多分通いたくなる
- レファレンスも、静かな図書館だと聞きにくいので、もう少し気軽に聞けるといい
- 「推し」の司書がいるといい。司書の人と気軽に本の相談ができたり、相談できる場所があると、学びの場としていいと思うから

交流することができる図書館

- その日読んだ本の感想等を、付せん等に書いてペタペタ貼れる掲示板や、読んだ本を発表できるイベント等をつくると、新しい本との出会いになる
- 司書の顔が見えて、そこの選書が「この司書さんが選んだ本すごく好き」といったときに、司書の「ファン」「推し」のようになっていくと面白いかと思う
- 何か一つの目的みたいなものがあるといいと思う。図書館に来てロケットをつくる、EV 電気自動車をつくる等といった、横浜版の下町ロケットのようなことをやったりすると、みんなが自然に集まりスポコン漫画のようなものができるのではないか
- コンシェルジュのような司書

以上

第３回･グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館

グループ対話

居場所としての図書館

- 考えたり調べたいことにじっくり集中でき、邪魔されないけれど、聞きたいときは聞けること。困っているときに安心できる場
- 図書館は社会教育施設なので、本当は本が中心であってほしい
- 自動貸出機や予約資料を自分で取って借りられる非対面のシステムがあれば気が重くない。司書に話しかけるのもハードルが高いので、もっとハードルが下がる工夫が欲しい
- ソファや座り心地のいい、長時間滞在に向くチェアがある。他の図書館に入っているようなカフェがあると行きたくなる
- 飲食可能なスペースがあると一日中滞在できる
- 不登校の子ども等でも、誰でも来ていいよ、といったスタンスがあると、もっと安心して行ける場所になると思う
- ディスカッションできる個室が借りられるといい。
- イベントが、平日昼間に参加できる大人か、小学生以下の子どもを対象にしたものば

かり。中高生、不登校の子が参加できるものがあると、図書館だと通いやすくていいと思う

- 交通系 IC システムで入退館を管理できたら、安心して子どもを行かせることができる

交流することができる図書館

- 本と関連づけて、図書館で文化交流のようなものができたらいい
- 興味があるイベントに参加して、その後つながって何か活動していけるような場づくり。継続的に市民同士がつながれるような場になっていくといい
- 交流できる場所と静かな場所を分けたほうがいい
- 交流の場としては、特に決まった目的もなくコーヒーを飲むスペース。話せる場所がほしい
- 一箱本棚オーナー制度。市民の方を公募して選書してもらうというのがあれば、「つくる場所」というものになるかと思った
- 外国人も図書館を利用しやすいようにしてほしい。外国人・外国籍につながる子どもの行き場をつくることも大事なので、利用しやすい交流場所にしてほしい
- グループ学習スペースがあること。静かに本を読むフロアとは別にあるといい

学ぶことができる図書館

- 本棚の間を歩いて本を選んでいると必ず隣の本も目に入り、新たな出会いがある。そこがネットといちばん違うところではないかと思う
- 高齢者ではなくても、パソコン・スマホが使えない方がいる（経済的な理由）。簡単なパソコン作業を学べて、いつでも使えるパソコンが図書館にあるとよい
- 音楽が好きなので、スタジオがあって、演奏する機材が最低限揃っていて、図書館から発信できるといい
- 学術書が少ないので増やしてほしい
- 印刷できる場所（有料でよい・高スペック）。せっかく館内のパソコンを使ってネットで調べても印刷できない。いちいちメモするのは無駄な時間
- 地区センターや区役所等とつながっていると情報が取れるので、つながっていることは大切だと思う。パッと見られる掲示板があればいい
- 最近の大学は設備がすごいので、神奈川県内・横浜市内にある大学の図書館を市民が使える仕組みがあるとよい

以上

第３回･グループ３　選択テーマ：子育てと図書館

グループ対話

安心して子どもを連れていける場所

- 読み聞かせ。大人だけでなく、大きな子が読み聞かせをする
- 返却ポストを駅前等につくってほしい
- 図書館を区にもっとつくってほしい。１つの区の人口当たりの図書館が少ないと思う
- 子ども専用の図書館。どうしても泣いてしまう赤ちゃん等もいるので、子ども専用だとお母さんにはいいかなと思う
- 託児。母も本を読みたいけれど、子どもがいると読めない
- 靴を脱いで過ごせる場所。畳だと嬉しい
- すべての部屋でなくてもいいので、館内飲食 OK にしてほしい。
- 公園・広場・美術館・博物館・植物園・ビオトープ・水族館・木陰。くつろぎながら本を読める場所。目が届くところに子どもがいたほうが安心で、子どももいきなり預けられてもストレスになってしまうかと思うので、傍にいられる場所があるとよい
- 蔵書のシステム検索が難しく、思ったものが出てこないことが多い。
- １年生は★1個等と貼ってあるが、開いたら全然読めない漢字があったりするので、そ

この精度を上げてほしい

親子で楽しめるサービス・イベント

- 絵本づくり。子どもだけとか親子でできるとよい
- 絵本をテーマにしたお芝居。児童劇団のサポートがいると思う
- 紙芝居とプロジェクター。人数や広さによってはプロジェクターを使う
- 子どもが生まれてから行けなくなってしまった場所が映画館。子どもと一緒に映画が見られるイベントがあると非常にありがたい
- 子どもが発表できる場所。子ども自身が何か企画して何かイベントできるようなものがあったら面白い
- 子ども目線ではなく、親子を分けてイベントを並行してくれるといい。手遊び等は大人がつまらなくなるので、その間大人は違うことをしたい
- 子ども主導のイベント。大人がレールを敷いてこうなってほしい、ではなく、子どもがやりたいと言ったら、どんな企画でも「それいいじゃん！」とやらせる
- 母親同士が自然と話したり、子ども同士が自然に遊んだりできる、余白がある場所だといい。区切られた場所ではなくみんなで過ごせる場所
- 知的玩具のような木の造形ブロックがあるとよい。板が大量にあって、城等をつくれる。2 歳くらいでも遊べる
- 大学の図書館で、大学生・高校生・中学生・小学生が食堂で一緒に遊び、本も読んでくれた。多世代の人と関わりながら、子どもが育てられ、とてもいいと思う

子育て・子育ちにいい資料・メディア

- 日常生活にアートが馴染んでいてほしい。絵を見て「私はこう感じた」と対話できる場所があると素敵だと思った
- 積み木・ボードゲーム等が異年齢の人（高齢者・上級生・老若男女）とも交流ができると思う。本以外のところで、交流のスペースがあるといい
- 人形劇・影絵等。つくるのも楽しいし、それがきっかけで絵本を探してみよう、となったりすると思う

以上

第３回･グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 図書館はたくさんサポートができるものが揃っていて、どんな人でも来られる場所
- 児童館化を進めるためには、職員のノウハウが必要。発達障害の子どもが大声を上げて走り回ったり、本を投げたりしたときに対応できるノウハウ。地区センターにはそれがある
- 学生さんは、静かに勉強したいのではないか。読書館的な機能の強化
- 本を読むのが好きな文化好きな人。コーヒー等を飲みながら本を読みたい
- 図書館はいっぱい人が集うが、図書館のなかだけにとどまり、そのまま家に帰ってしまう。そこの賑わいがまちに出てくるようにしないといけない。例えば、関内のまちでは、ブラブラ歩き、カフェで休んで、スタジアムでは野球をやっている。図書館にもそういった色々な機能があるといい
- いま図書館で見かける人に、働き盛りのビジネスピープルはいない。本を読むことが好きでも図書館まで行くのは敷居が高くなる。有料サービスでもいいので、家にいながら本のやり取りができると良い

- 働く人たちが利用しやすいよう、立地や開館時間の工夫のほかにも、いろんなマイクロライブラリーがあって、それぞれ個性があり、口コミでよさが広がるといい

地域資源と図書館

- 図書館には地域の本がたくさんあるので、どこかに行こうと思ったら、まず図書館に行ったらいろんなことがわかる「観光の拠点」になればいいと思う
- ウェブサイトで調べ物をしたときに、図書館の資料やウェブの記事だけではなく、市の博物館や科学館の資料等にもつながるような環境やサービスの提供（「横浜市地域情報ポータル」の充実や広報）
- まちづくりへの貢献では、地域資料の提供は必須。ずっと住んでいると、「あなたの住んでいるまちについて調べる、発表する」という場が必ずある。どこで調べるかというと図書館しかない
- 民営やボランティアを巻き込んで運営する。イベントをもっとたくさん開く
- 図書館と本屋の違いは、司書さんだと思う。曖昧で何の本かわからないけれど、この分野について知りたいときに、本の探し方も一緒に教えてくれる
- 本屋と図書館の違い。ベストセラー本を買いたければ本屋やオンラインストアを利用すればいい。地域資料は儲からないから本屋にはない
- 自分にとって、オンラインの本屋とリサイクルショップは第二、第三の図書館になっているが、図書の流通が前提だからか、選定基準がわからない。図書館は流通しているかいないかではなく、独自の図書館の見識で選定することが大切。
- 図書館のインデックスを使いこなせない。検索しても出てこなかったり、大量に出てきて絞り込むのがたいへん。それで二の足を踏んでいる人がいる
- 外国ではサブジェクトライブラリアンといって、司書のスキルプラスαの専門（たとえば法律・情報科学等）をもった司書がいるが、日本の図書館の状況を考えると難しいだろう。そこで、地域の人、企業、司書がコラボで何かするといった、企業とのつながりも必要
- システムと個人だけで完結してしまうのはつまらない。横浜市の図書館に行けば有名な「スーパー司書」がいて、データや答えがあるだけではなく、リアルな人のつながりを教えてくれる。まとめ役のような「カリスマ司書」がいると面白いと思う

つながりづくりと図書館

- 興味があるテーマのイベントがあればすぐつながれる。図書館の主催だけではなく、いろんな人が図書館でこういうことをやりたい、ということを図書館が協力する
- 横浜の地元企業等を巻き込んで何か貢献ができるのではないか。図書館が、地元企業からの資金支援の情報、ノウハウや人を把握して、それらをつなげたり、市民活動をやっている人とマッチングできたりするサービスがあったらいい。持続的に活動するためのものを補うような貢献も図書館という場でやればよい

- 世代を超えて、多言語に対応した運営が必要になる。日本に長期・短期滞在している外国人の方が図書館に行けば何とかなる、というような支援が必要

以上

第３回･グループ５　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 社会人は、平日 19 時、土日 17 時を過ぎてしまうと行きづらい。貸出は停止しても、そこにいられる場所があると嬉しい
- 図書館は意味老若男女、小さい子からお年寄りまでが利用できる、貴重な施設。老若男女誰もが利用できるためには、親であれば子どもたちを学校に送り出す前に利用したい。夜は９時くらいまで時間を延長してほしい。
- コーヒーを飲みながら本を読めるスペースがあるなど、居心地の良い、有料本屋のようなイメージ。美術館を一緒にしてもいい。実際に見た作品について調べられるワークスペースがあると、得た感動がすぐに次に繋がりやすい
- 仕入れた情報や読んだ本と、体験する、インプットとアウトプットが一緒にできる場所であるとよい
- 市議会などでも図書館の話題が少ない。公共施設の中での図書館の役割は重要と認識して欲しい。
- どこにあるのかわからない図書館ではよくない。まずランドマーク的な存在になる

- 図書館が集う場、を目指すのか悩ましい。県立図書館はとても居心地がいいので、人もよく集まっている。子ども達が自然と行きたくなるということも重要
- 神戸の新しい図書館が非常によかった。豊橋まちなか図書館というのは本が少ないが、非常に混んでいて活気がある
- 大きく予算取りするとか、建て替える等大きな話でなくても、現実的な、今できることから少しずつ進めるでもよい

地域資源と図書館

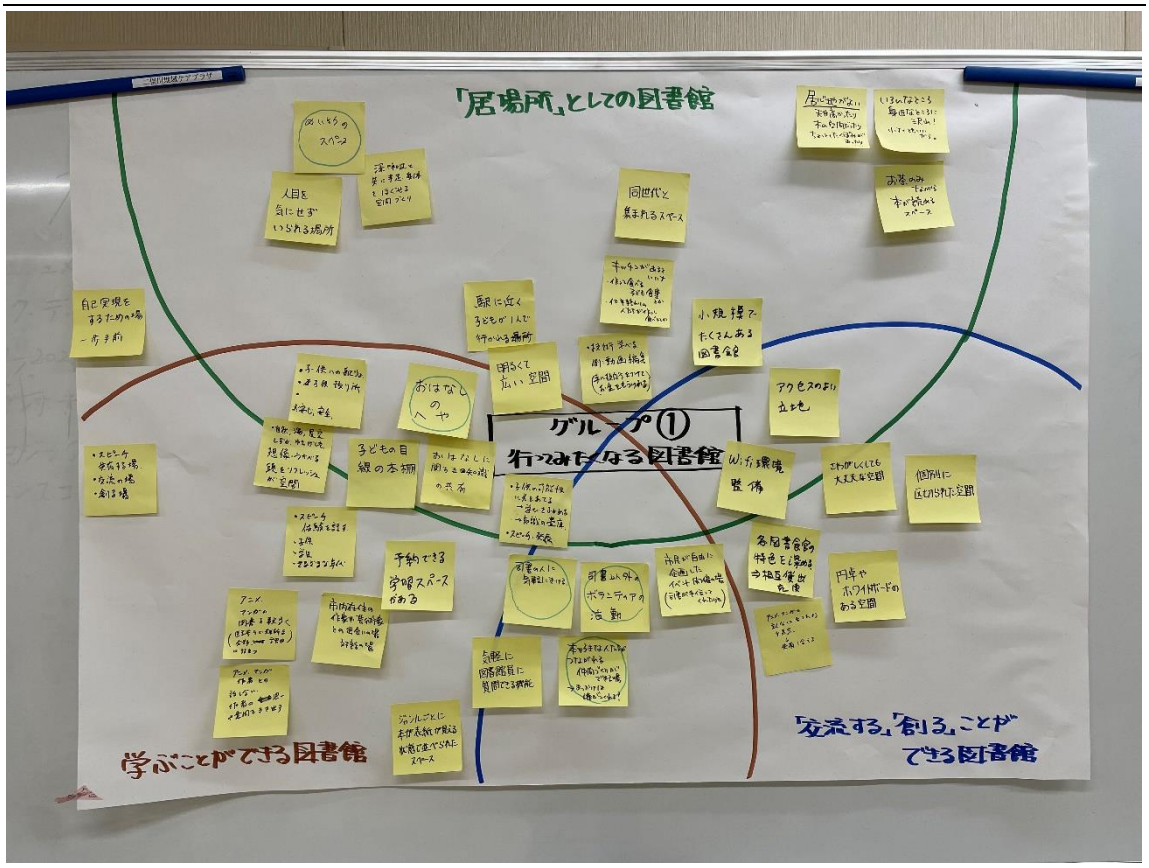
- 大学連携をすることで、大学を在宅ワークルームとして活用することができるかもしれない
- まちのシンボルとして、魅力作りのためにかっこいい建築があってほしい。興味を引くようなインパクトのあるコンテンツがあれば、いいなと思う
- 横浜の地域や郷土、地元の作家やスポーツ選手などについての特集や展示をし、地元への愛着を増やす見せ方を考える
- デジタルに特化する。インターネットで情報を探すことはできるけど行かないとわからないことが図書館は多い
- 地域ネットワークや情報を図書館が繋いでくれると嬉しい

つながりづくりと図書館

- 最近、鶴見人ネットという区民活動センターが実施している生涯学習ボランティアの存在を知った。こういった情報も図書館でアピールできるような機能を作っていきたい
- 図書館ネットワークは貸し借りだけでなく、情報もやりとりできる場かもしれない
- 図書館独自でつながりがどうして必要なのかがわからない。すでにコミュニティーセンターなどがある。重複する施設を作るのは無駄ではないか
- 観光客でも、どこへ行けばいいかわからない人が、とりあえずここへ行けば情報を取得できると思えるランドマークになるとよい。地域での交流や、学習での交流、観光客との交流など、様々な動きがでる
- 子どもが小さいときに図書館の本の読み聞かせをして、子どもと地域と関わってきた。読み聞かせというのは、リテラシー教育にもつながるように感じる。図書館に行きやすいことは、子どもが育ちやすいのではないかなと思う
- 勉強できる環境、友達同士で話せるスペース。地域との自然な関係ができる場

以上

第４回･グループ１　選択テーマ：行ってみたくなる図書館



グループ対話

居場所としての図書館

- 学習室があるといい。自分の家じゃなくて、集中して勉強ができる場所
- 木でできている、天井が高い等、居心地の良い空間。ちょっと隠れ家のような、小さい部屋で中に入って落ち着けるような空間があるといい
- 身近な場所にたくさんあるといい。学校の図書館とか、地区センターとか、そういった機能の活用もいい
- 今ある施設に慣れているので、突然、新しい大きいランドマークを作りますと言うと、ハードルが高い。今あるものをできるだけ活用して、地域に寄り添って、図書館、コミュニティセンター、それぞれの蔵書をより深めることができるといい
- 「おはなしの部屋」があるとよい。そういう場所があれば、お母さんたちも安心して連れてこられる
- 駅から近いのは、子どもたちもおとなも本来は理想
- 雄大な山や、癒しの空間みたいなものが演出できて、リフレッシュできるといい
- カフェとはちがって何にもしなくていいし、お茶も飲まなくていいし、誰かと一緒に

行かなくてもいい。だけど、本にアクセスできて、自分のための時間が過ごせると、安心できる

- 親・保護者が、一時的に子供を預けて自分の時間を持てるのは良い
- 読書をしているととても姿勢が悪くなるので、体操や瞑想等ができる空間があればいい。電話ボックスぐらいの大きさで、自由に使えるようになっている
- 周りの視線が気にならずに座れる場所。明るく広くて綺麗な空間の方が居心地がいい
- 公共図書館は静かにしなくちゃいけない場所というイメージがあるので、騒がしくしても大丈夫とか、話しても大丈夫というスペースが区切られてあったらいい

交流することができる図書館

- せっかく本好きの人がいっぱい集まる場所なので、その方たちが繋がれるような仕組みがあると、土地の良さにも繋がる
- 横浜市には作家の方や美術家の方がいる。そんな方たちと対話とか、講演会のようなことができるといい。私たちも触発されて、なんかやってみようかなとか、こういう仕事もあるのだなとか、そんなきっかけにもなるのではないか
- 司書の方がせっかくいるのに、利用者も司書を活かせていない。もうちょっと身近な存在になってもらえるようなイベント等があるといい
- 図書館を使って読書会など市民がイベント企画していくような場所もできるといい
- 10 代の同世代って、意外と図書館で見当たらない。同世代同士で集まれるような場所があったら、居場所になるのではないか

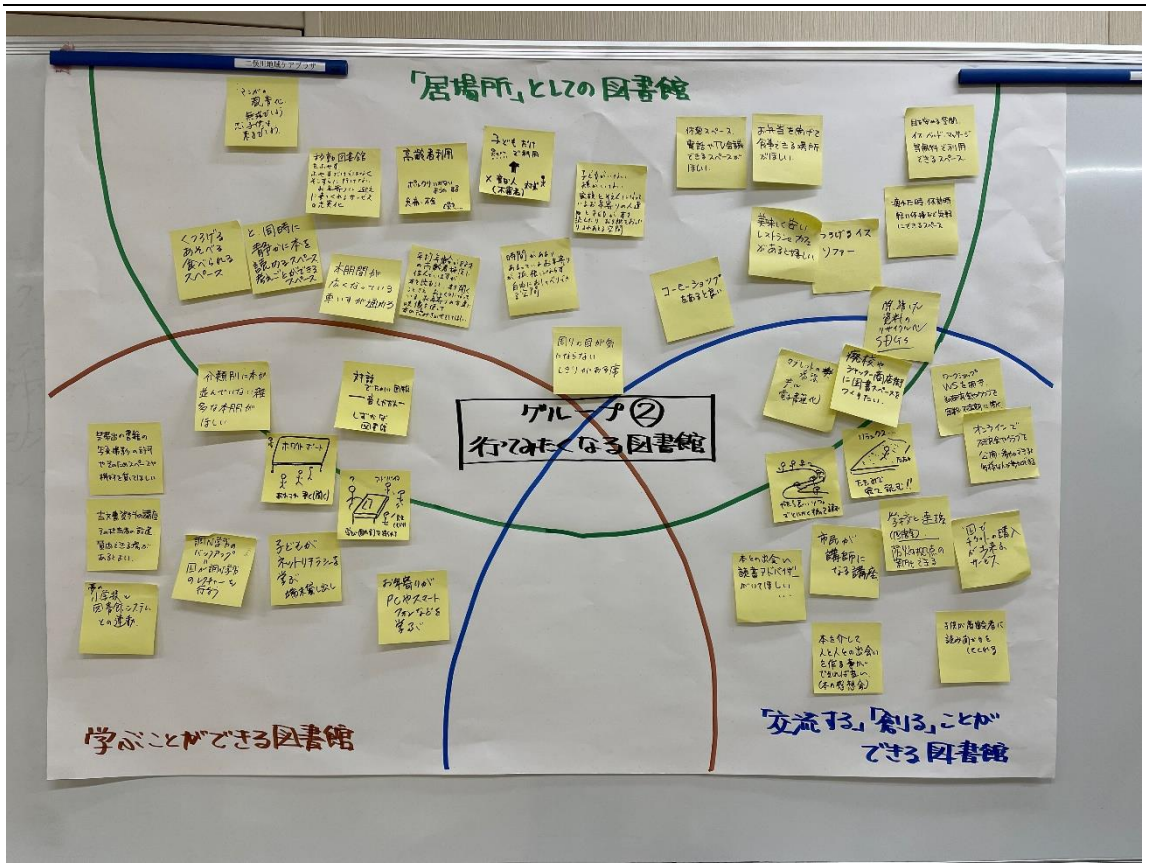
学ぶことができる図書館

- キッチンや、3D プリンターや、スタジオのような設備はいいなと思った。本を読んでちょっとやってみたいな、と思ったことをすぐにその場でできる設備
- 子どもが動画編集等を実際に作って、それをみんなの前で披露するようなことができるといいのでないか。みんなが仕事のための技術を身につけられるとよい
- 日本の文化である漫画、アニメの発信をする。専門的な図書館があってもよい
- スピーチ・発表する場所があればいい。みんなと考えていることを共有することで、自分の考えや固執しているものはなだらかになる。子が持ってるものを伸ばすために、勉強したり、専門知識を教えてあげたり、知の宝庫にあるものを子どもたちにつなげる。そのためには、親が集まって、光を当てて、喝采があって、そういう場があったらよい
- レファレンスカウンターに行くことを躊躇するときも多いので、ちょっと気になったことも気軽に聞けるようになるとよい
- 司書の方にこんなことやってみたいのだけど、と相談して「一緒にやりましょう」と、一緒に企画してくれると嬉しい
- 専門的な図書館があっても良い。そこと上手に連携できれば、もし大学図書館にない

資料であっても、その専門図書館から入手できるし、フィンランドの図書館のようにほとんど蔵書がない図書館であっても、司書同士で教えあうことが可能。大学図書館もそういう感じでやっているが、もう少しデジタル化されてもいい

以上

第４回･グループ２　選択テーマ：行ってみたくなる図書館



グループ対話

居場所としての図書館

- 巨大な畳があって、寝て本を読める場所。図書館は座る場所が少ないので、すごく長いソファ等があればいい
- 疲れたときに軽い体操等ができる、身体を動かせる場所があればいい
- 1 時間 100 円といった有料でいいから、くつろげる椅子があってコーヒーが飲めてお弁当が食べられる部屋をつくってほしい
- 周りの目が気にならない、仕切りのある席がいっぱい並んでいるスペース
- 長時間図書館にいることが多く、朝から晩までいるので、休憩スペースやテレビ会議ができるスペースがほしい
- どんな事情のある人でも受け入れられる、懐の深いスペースや設備があるといい。たとえば不登校で学校に行けない子どもや小さいお子さんからお年寄りまで
- お年寄りは有り余る時間をどう過ごしていいかわからず自分の世界に入ってしまう方もいると聞く。デイサービスも嫌だというお年寄りのために、地域で図書館も含めてお年寄りに援助の手を差し伸べられるとよい

- 車いすの友人は、図書館は本棚の間が狭くて移動できないらしい。車いす等でも通れて、ゆっくり見られるようなスペースのある本棚があるといい
- 図書館にエレベーターはあるが、スロープやエスカレーターは少ない。あっても遠くの端っこにあり見つけにくいので、堂々と「誰でもどうぞ」」というのがあるといい

交流することができる図書館

- いろんな人が集まったなかでアイデアを集めるものがあればいいと思っている。大きいホワイトボード等
- 講師の人を呼んで何かをやるのではなく、市民が講師となる講座、教え合いや学び合いができる場所があればいいと思う。学校だと近くにあるから、図書館をお金をいっぱいかけてつくらなくても、高齢者がそういうところに出入りすれば、交流としてもいい。
- 定期的にワークショップを開いて、それを中心に研究会やクラブをつくって活動の場を公開する。オンラインでそういった会を公開したり、参加できるようにすると、もっといろんな人が参加できるのではないかと思う

学ぶことができる図書館

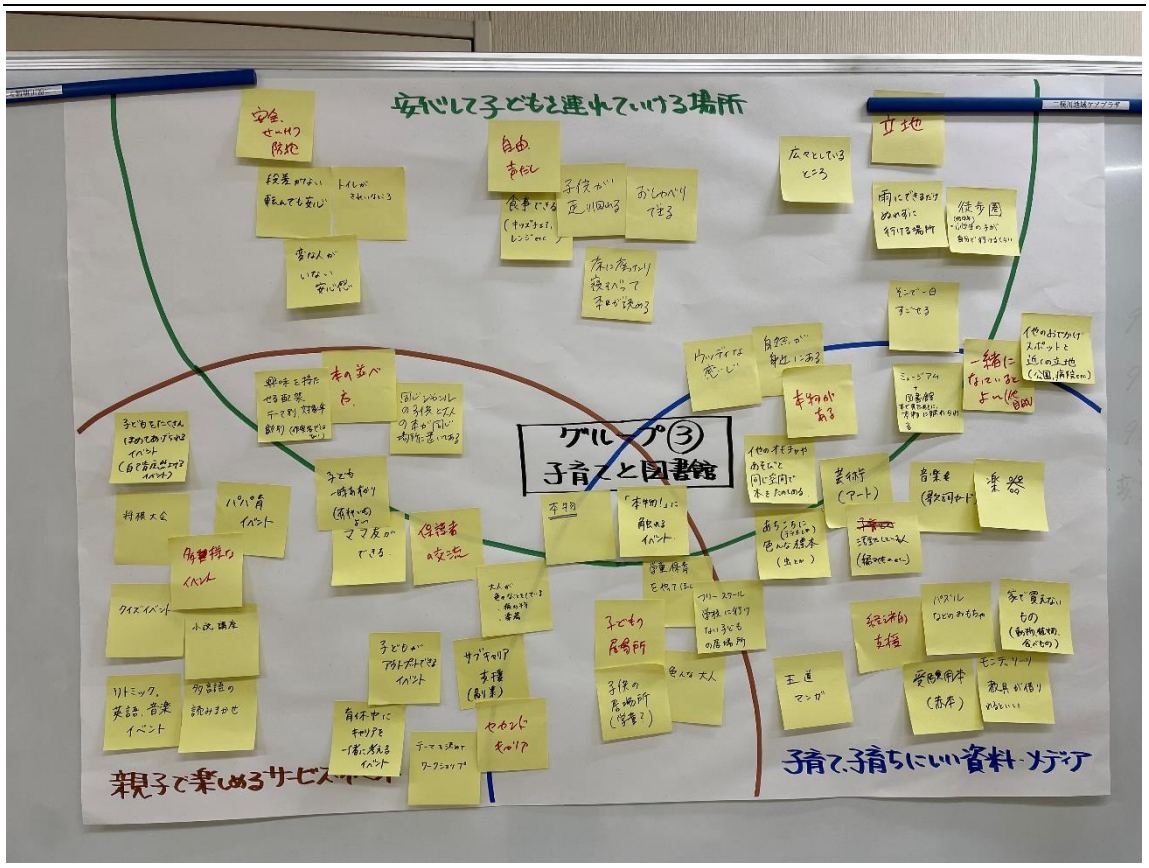
- 小中学生が、わからないことがあって質問するとアドバイスをしてくれるような大人がいて、宿題くらいだったら面倒見てあげるといいのではないか
- 創作に興味があり、誰でも自己表現ができる創作の場所があるといい。簡単な道具が揃っていて、素人だけどやってみたいという人もできる、というスペースがあるといい
- 小学校の図書館システムと横浜市の図書館システムを連動させてほしい。それをやれば蔵書の貸出が増加する。先進的な夢のような話だができればやってほしい
- 学校図書室だと近くにあるから、新たに図書館をお金をいっぱいかけてつくらなくても、ネットワークをつなげるだけで良いのではないか。高齢者が学校図書室に出入りすれば、交流としてもいい
- 調べ学習のバックアップ。図書館側が学校に行って調べ学習の説明やバックアップをする。知識をもって支援をしないと
- 横浜市はマンガの蔵書が少ない。一般的だが、子どもたちがなぜ図書館に来ないかというと、マンガ等面白いものがないからというだけの話。
- タブレット化をすると、10 年後には図書館はなくなる。図書館に入ったら紙の本ではなくタブレットがおいてあり、タブレットを借りてくる。電子書籍化すると、お年寄りや子どもたちが図書館に行かなくても家で読むことができるメリットはある
- （若い年代は電子書籍をどう思うかと聞かれたが、）自分は紙のほうが好きで、電子書籍はあまり好きではない。電子書籍を読んでみた感じは画面が明るくなって光の反射も気にせず読めるし、文字や絵が拡大できてよくわかるが、自分はめくる感じが大

事。デジタルより、本をめくって読んだときのほうが頭に残るという研究もあった

- 県立図書館や中央図書館に資料としての紙の本をとっておくことは大事だと思うが、各区にあるような図書館は進化していかないと。一つ資料として取っておくと同時に、フレキシブルな空間をどんどんつくっていく。あらゆるところが図書館のようになることを望んでいる
- 本を自分で探したい人は、偶然の出会いで好きなものが見つかる可能性もある。そういう出会いがある場があるといいと思う
- 図書館で専門の方を配置する。なおかつ日替わりで置けばいい。たとえば、月曜日はケアマネージャー、火曜日は弁護士、といったようにそこで相談窓口をして、本の貸出推進にもっていけるといい
- ネット活用は重要。ＰＣ端末が使えるようにレクチャーや、ネットリテラシーをまなべる講座があるといい
- デジタル化されて人が少なくなってきている。目指すところは、多様化に応じた対応力のある人や、デジタルで賄えないところを強化することだろう

以上

第４回･グループ３　選択テーマ：子育てと図書館



グループ対話

安心して子どもを連れていける場所

- 徒歩圏内にある図書施設が重要だと思う
- もちろん徒歩圏内にあったら嬉しいが、ちょっと遠くても大きい公園の近く等ほかの目的と合わせて１日プランを立てられるような立地だと嬉しいと思った
- ランドマークになるような立派な図書館もいいが、分館等もたくさんあって、うまく連携しながらやってほしい。子ども向け図書が充実しているところ、最新刊が揃っているところ、とそれぞれ特徴があるといいと思う。単体ではなく、複数の図書館と連携していくことがあるといい
- トイレが綺麗。死角がなく、子どもを連れていても動きやすい
- 緑区の図書館で子どもに読み聞かせをしたことが温かい思い出になっている。特別なスペースでなくても使い方によっては素晴らしいサービスになる
- この変化の時代に、自分の子どもがいつか学校に行けなくなる不安感はずっとある気がしている。ちょっと今日は図書館でやろうかな、という感じの場所であってほしい

親子で楽しめるサービス・イベント

- お笑いが好きなので、図書館でお笑いライブ等をやってくれたら行く
- 読み聞かせ会はいまもよく参加しているが、それだけではなく、リトミックや英語の絵本の読み聞かせ、音楽系のイベント等の充実。ワンコイン程度であれば払ってでも行こうと思う
- 子どもが 1 歳で仕事復帰をしたが、育休中のキャリアを自分のライフキャリアとして考える前向きになれるイベントがあったらよかったと感じた

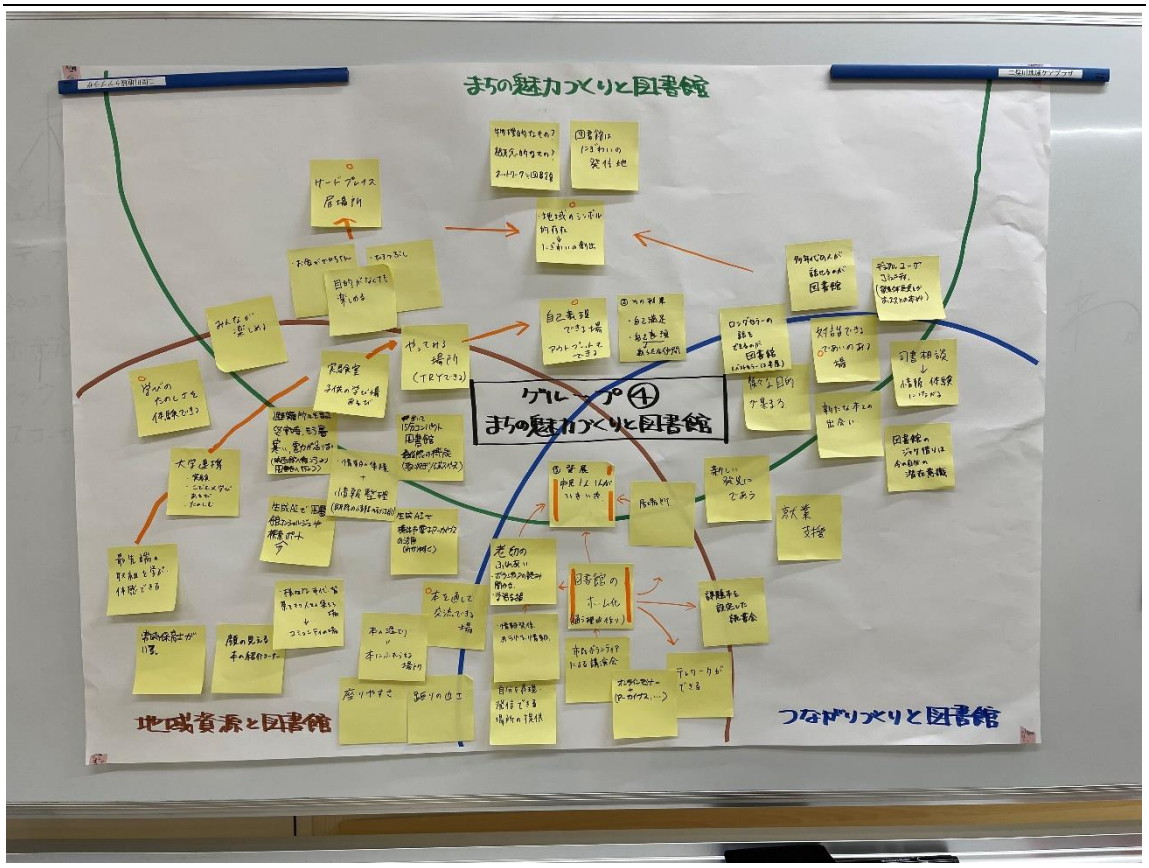
子育て・子育ちにいい資料・メディア

- 作者名で選ぶ子どもはいないので、テーマごと、対象年齢別に分けて並べて欲しい
- 子どもが小学 3 年生で放課後のキッズクラブに通っているが、人がたくさんいてたいへんという話も聞く。図書館で学童保育のようなものがあったら通わせたいと思う
- 青少年（中高生）を図書館で見かけることがあまりないので、中高生が興味をもつようなイベントや本の品ぞろえがあるといい
- 高価で個人的には買えない専門書は、素人に買えるものではないので、そういうものが借りられるといい
- いまの子たちは携帯ばかり見ていて経験がすごく少ない気がするので、編み物や楽器演奏をしている人がその辺にいるといった、自分の身近にないものと接点になる場所があればいい
- 動物、植物、モノ、食べもの等、家では買えない本物を見たい。芸術や楽器も。音楽も歌詞カードだけでもあるといい。音楽は溢れているが歌詞カードはあまりない
- 図書館で働きたいが、出版系の業界はやりがいを搾取する業界になってしまっていて問題だと思っている。普通に働いて、普通に子育てしというのを図書館スタートでやりたい
- 横浜市は人口が多くいろんな人がいるので自分の知識や経験をシェアしたい人もいっぱいいると思う。地域の人たちが恩恵を受けるような流れができるとよい
- ライフキャリアにおける本のコンシェルジュがあるととてもいい
- 子どもが受験のときに、本当に赤本を買えない家庭もある。利用者が少ないにしても、子どもが受験のために役立つものも置いてもらえるとお金が浮く

以上

-

第４回･グループ４　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館



グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 特に目的がなくてもとりあえず図書館に行けば何か楽しいかもと思えるような場所になったらいい
- 地域のシンボル的な存在として、図書館があって、賑わいが創出できたらいい。新たな本との出会いということで、自分が選ばない本を提供してくれる場所
- 最先端の取り組みを学べる、体感できる場所。例えば脱炭素など、今話題のものが、図書館に行くと実感できたらいいなと思う
- 本屋と図書館の魅力は何か考えた。ロングセラーの話を他の年代の人とできるのが図書館なのかなと思う
- もう蔵書がいっぱいになって大変だっていう話だったが、蔵書が全てそこの図書館にある必要はないと思う。ほとんど使われないような本は倉庫にあり、見たい時に検索して予約して近くで取りに行くというようなのがいい
- 図書館に行くと棚を見て、自分の普段行かない棚に行って目に入った本をたまに借りる。それが結構自分にヒットしているかも、と感じる瞬間がすごく面白い

- 本のぬくもりがすきな人は居心地のよさをもとめて来館し、それは賑わいにも最終的に繋がる。別に家にいても居場所はあるけどあえて図書館に行く。そうすると本や新しい出会いにも繋がるから、本屋ではなく図書館に行く。行きたくなる物理的な魅力もあるし、本を通して交流ができる場だから、本や情報を介して地域資源に繋がっていく。物理的な本棚だけじゃなくて、概念的なネットワークということも図書館だと捉えることで、本のぬくもりに触れたいときには、近いところの図書館なのか大きいところの図書館なのか、選べるということかなと思う

地域資源と図書館

- 最低限の図書取次や、公共スペースがあるといい。地域資源にもなるし、まちの魅力にもなり、避難所にもなる
- 司書をもっと活用したい。デジタル化ともつながるが、実験をする場としてとらえる
- 仕事の情報を蓄積していくことで、その繋がりも地域資源にもなるのではないか。就業支援にも繋がる。若者たちが、自分は将来どうしたらよいのかとか、定年退職を迎えるときに自分は将来定年後をどうしたらいいのかというときに、まずは情報を知る場として図書館がいいのではないか
- 例えばこの図書館は、本は少ないけど、体験がたくさんできる、とかトークショーがたくさんあるから、などもその図書館に行く動機付けになる。何か新しい情報に出会い、交流が生まれたりすることを期待して行く
- 最先端のことを学ぶことができるといいのではないか。例えば大学図書館と市立図書館が連携することによって研究の視点からいろいろ科学的な学びができる

つながりづくりと図書館

- 図書館のホーム化、同じ目標の人が集まる、例えば勉強や資格の取得を目指しているような人たちが集まると、図書館に行くサイクルや頻度が高くなるのかなと思う
- テレワークができる場所。図書館に来ている様々な年齢、何か背景を持つ人々の集まりとの新たな交流が生まれたり、何か発見があったりとか、ただ家でやっているよりは、何か発展的なものがあるかもしれないと思う
- デジタル化できるところはデジタル化するのがいいかなと思う。そこからユーザーコミュニティができれば、情報とも人とも繋がり、オンラインでも繋がる
- ボランティア講演会等の記録もデジタル化しておけば資源になるので良いのではないか
- ただの本の話を純粋にしたいときに行ける場所があんまりないのでそういう場所になってくれたらいい
- 自分を表現できる場所、発信できる場所になって欲しい
- 本や情報、居場所等それが全てまちの魅力になり、情報発信することになるのではないか

以上

第 4 回・グループ 5　選択テーマ：まちの魅力づくりと図書館

グループ対話

まちの魅力づくりと図書館

- 駅から直結で行けること。時間も夜 10 時、11 時まで毎日利用できるのがいい
- 図書館の機能を果たすためには、身近に図書館がなくてはいけない
- 幼稚園、小学生向けに図書館ツアーを行って、図書館はこういうところ、ということを小さいうちに教えてあげて、それからもずっと図書館の利用者になるといい
- 図書館はそもそも集客できる。子どもの発表をしたり、地域に特化した情報の発信や、試食。試食はネットではできないことなので地域の近所の店の新しい商品の試食とアンケートができたり、ということに広げることができる。
- 地域の住民が図書館に来て活発に活動できて、家に帰っても会社に行っても学校に行っても生き生きと元気に暮らしていけるということが実現できるかどうかが肝だと思う
- 居心地のよい図書館。ブラッと行って長い時間ゆっくりと本に浸っていられる。あまり規制は厳しくせず、多少騒いでもいいとか、食事も自由にできるといいと思う
- 司書がいてレファレンス機能がある、というのが図書館のいちばんの魅力

地域資源と図書館

- 地域の無形文化財になっている団体や活動を紹介できるサービスがあったらいいと思う
- 小中学生が学習の段階で、まちを歩くといった活動をしているので、まなんだことをもっと深堀できるサービスがあったらいい。より図書館に来たくなるサービス
- 相鉄のキャラクターとコラボ
- 地域研究家しか知らないような、まちの魅力を広く伝える展示や自分たちで集まって学習会や読書会をする等の学習活動
- たとえば鶴見川という資源に対して何かイベントなり考えようとしたときに、ゴミの問題や生き物の生態、治山治水の対策、歴史的な流れ等、多方面な見方がある。いろんな方面から図書館の資料によって紹介していくことができるのではないか

つながりづくりと図書館

- サービスについては、情報リテラシーの向上支援。高年齢化が全国で進んでいて、デジタルなものというのは身体が動かなくなるほど便利なところがある。Uber Eats でモノが届く、動画が見れる、本が借りられる、というのは便利。それらを活用できない人がいるなら支援する、というのも図書館に求められているかと思う
- 事例にあった「おとなの夜学」のようなイベント、学習サークル活動ができたら、その地域にいるいろいろな経験をしてきた方とお互いの知識を提供し合えて楽しい活動ができると思う。図書館の一部にそういったサークル活動ができるようなスペースとそれをサポートするような事務局があるといいと思う
- リブライズさんといって「すべての本棚を図書館に」という活動をしている方がいる。すでにあるところとリンクしていけるといいと思う

以上